

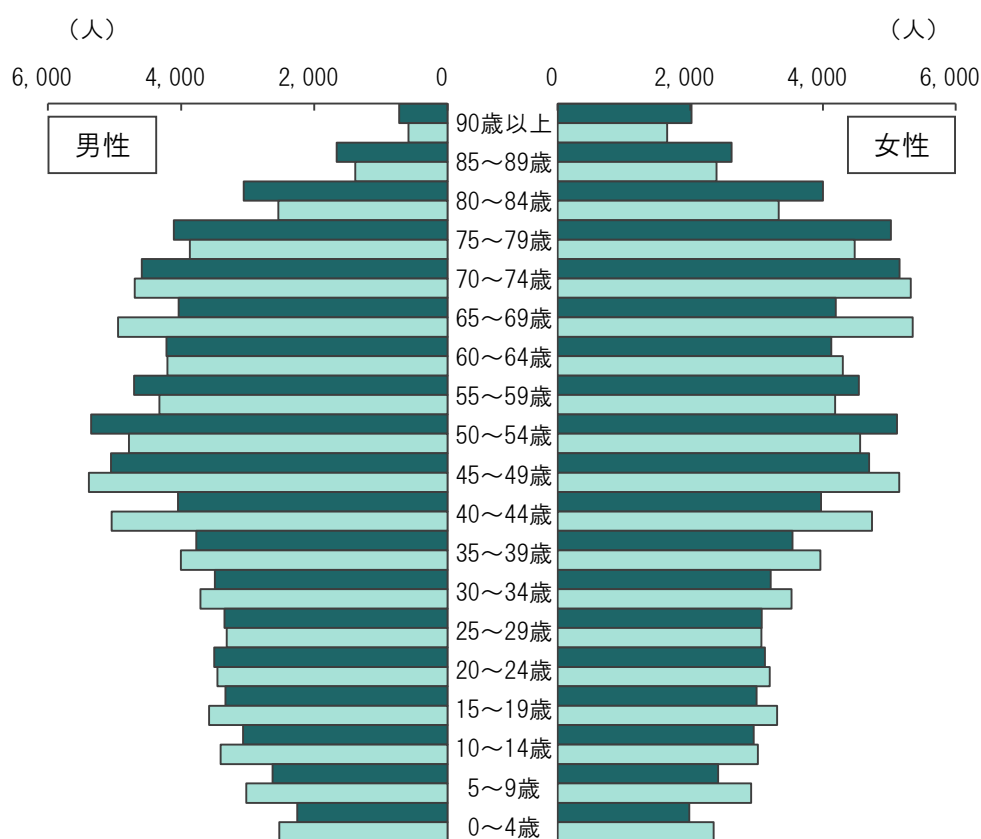
第2章 焼津市の現状

第1節 統計データからみる焼津市の現状

(1) 人口ピラミッド

焼津市の5歳階級別人口をみると、人口ピラミッドは、つぼ型です。人口構成は、50～54歳が最も多く、次いで45～49歳、70～74歳などとなっています。団塊の世代が75歳以上の後期高齢者へと移行し、増加しています。一方、15～64歳の生産年齢人口と0～14歳の年少人口は減少しており、少子高齢化が進んでいます。

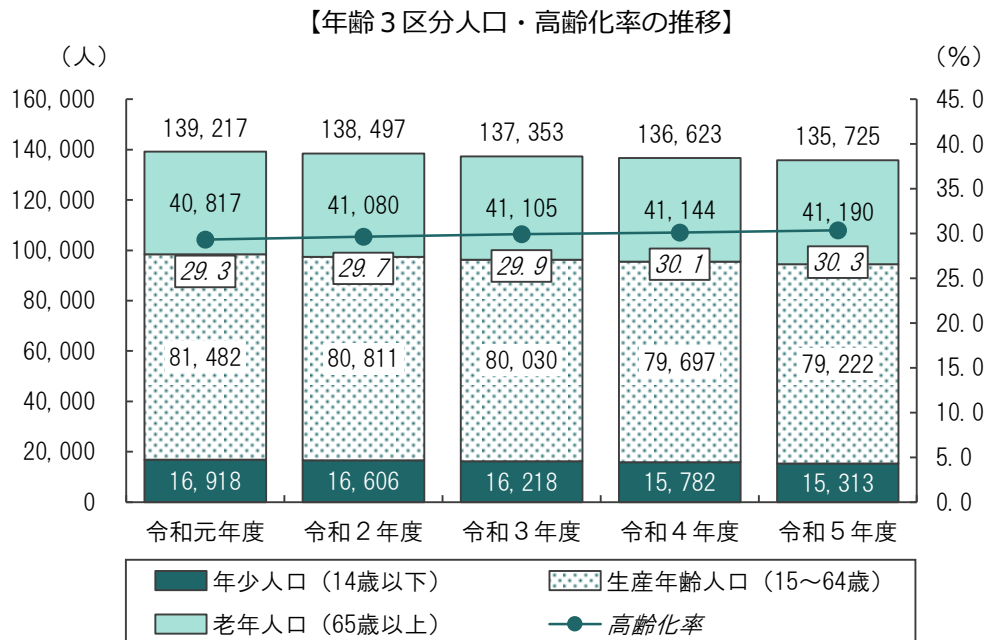
【5歳階級別人口】



資料：焼津市住民基本台帳／（濃）上段：2024（令和6）年3月末、（薄）下段：2019（平成31）年3月末

(2) 年齢3区分人口・高齢化率の推移

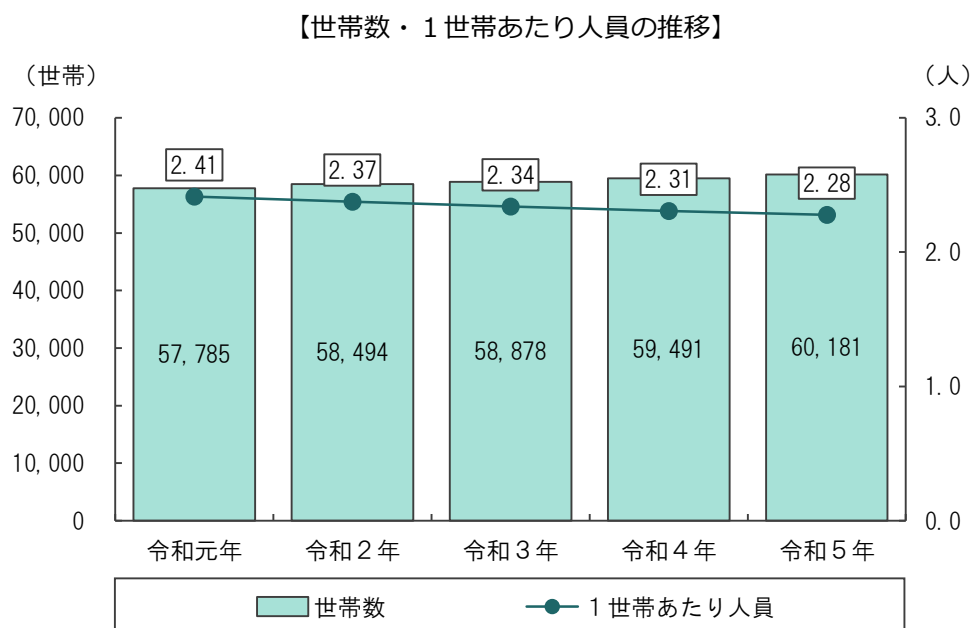
総人口は、減少を続けています。年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口（14歳以下）と生産年齢人口（15～64歳）は年々減少している一方、老年人口（65歳以上）は増加しており、2023（令和5）年度の高齢化率は30.3%となっています。



資料：住民基本台帳人口（各年度末現在）

(3) 世帯数・1世帯あたり人員の推移

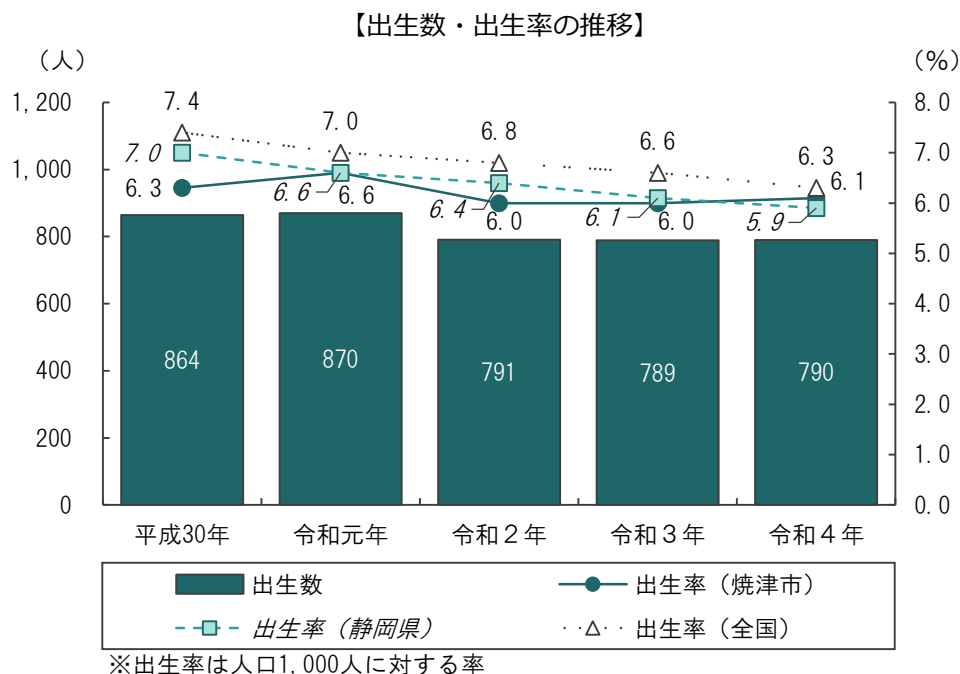
世帯数の推移をみると、年々増加しており、2023（令和5）年は60,181世帯となっています。一方、核家族化の進行やひとり暮らし・高齢者のみの世帯の増加に伴い、1世帯あたり人員は年々減少し、2023（令和5）年は2.28人となっています。



資料：統計やいづ（各年12月31日現在）

(4) 出生数・出生率の推移

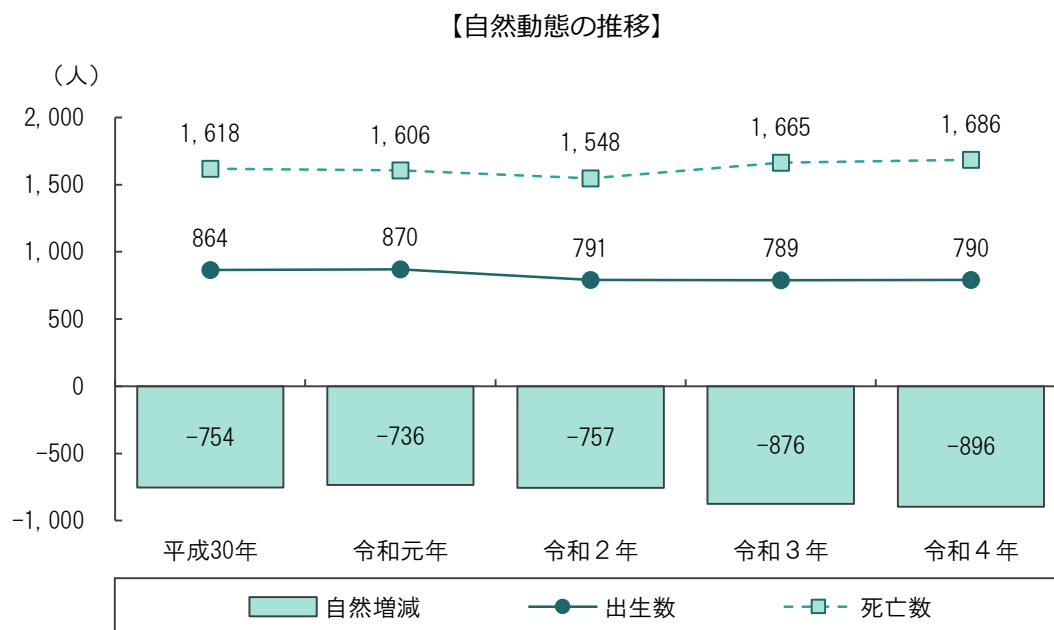
出生数・出生率の推移をみると、出生数は、減少傾向にあり、2022（令和4）年は790人となっています。出生率は、国や県と比較すると、全国平均・静岡県平均を下回る状態が続いていましたが、2022（令和4）年は全国平均を下回り、静岡県平均を上回っています。



資料：静岡県人口動態統計

(5) 自然動態の推移

自然動態の推移をみると、出生数より死亡数のほうが多く、自然減の状態が続いています。減少数も拡大を続けており、2022（令和4）年には896人まで拡大しています。

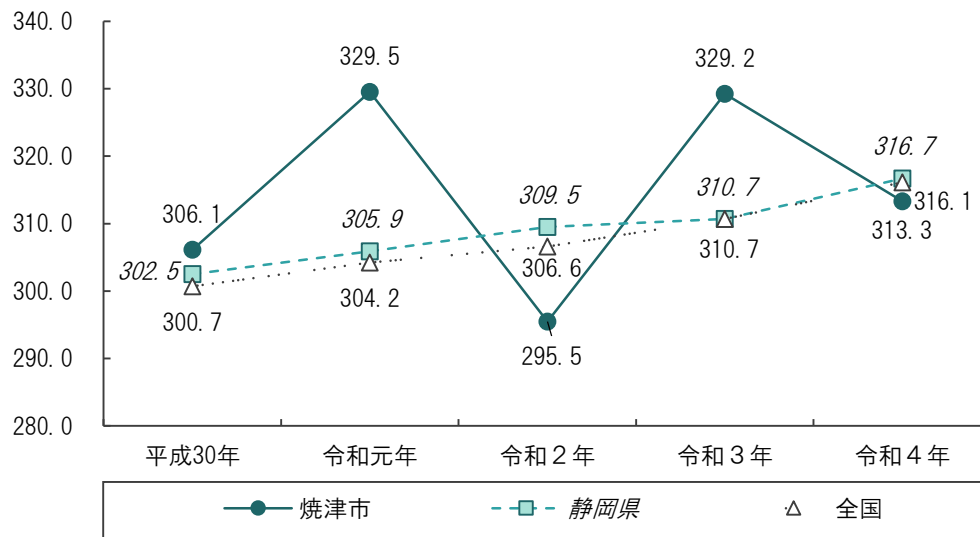


資料：静岡県人口動態統計

(6) 3大死因別死亡率の推移

悪性新生物死亡率は、2019（令和元）年と2021（令和3）年において国・県を超える水準となりましたが、2022（令和4）年においては313.3と、国・県をわずかに下回っています。

【悪性新生物死亡率の推移】

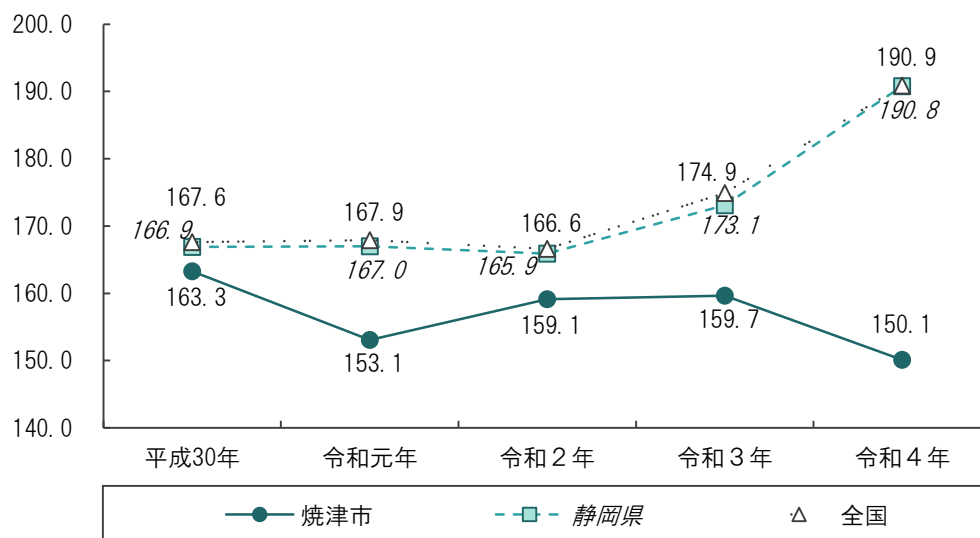


※死亡率は人口10万人に対する率

資料：静岡県人口動態統計

心疾患死亡率は、2018（平成30）年以降国・県を下回る水準で推移し、2022（令和4）年においては150.1とこの期間において最小の値となっています。

【心疾患死亡率の推移】

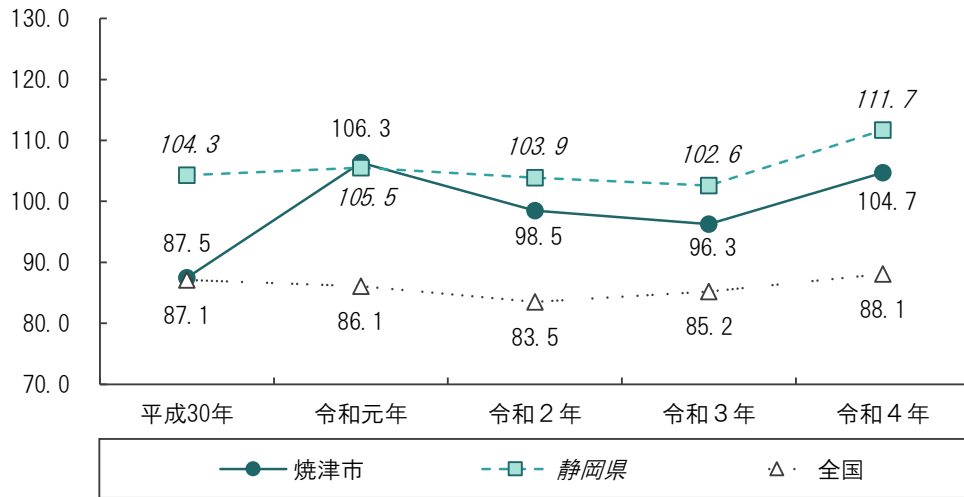


※死亡率は人口10万人に対する率

資料：静岡県人口動態統計

脳血管疾患死亡率は、2019（令和元）年において 106.3 と国・県を超える水準となりましたが、以降は概ね国を上回り県を下回る水準で推移し、2022（令和4）年においては 104.7 となっています。

【脳血管疾患死亡率の推移】



※死亡率は人口10万人に対する率

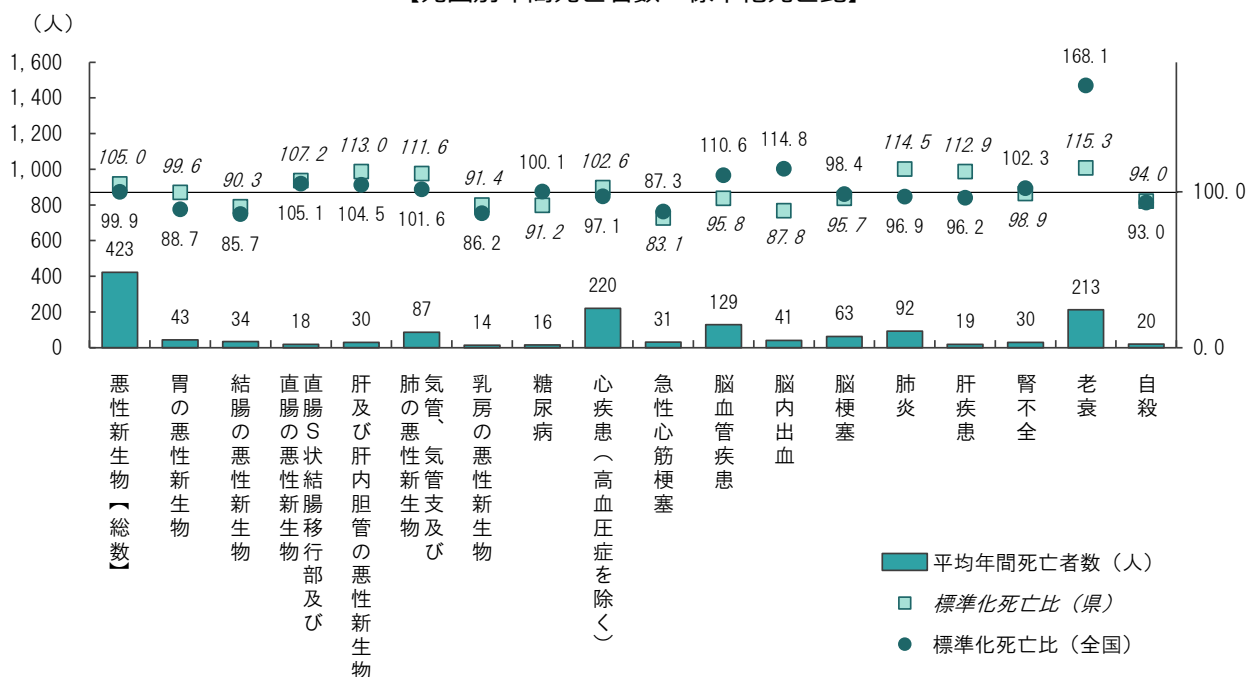
資料：静岡県人口動態統計

（7）死因別年間死亡者数・標準化死亡比

死因別年間死亡者数をみると、2017（平成29）年～2021（令和3）年における平均年間死亡者数は、「悪性新生物」が 423 人と最も多く、続いて「心疾患（高血圧症を除く）」が 220 人、「老衰」が 213 人などとなっています。

県を 100 とした年齢調整後の標準化死亡比をみると、特に「老衰」「肺炎」「肝及び肝内胆管の悪性新生物」「肝疾患」「気管、気管支及び肺の悪性新生物」が高く、国を 100 とした年齢調整後の標準化死亡比では、特に「老衰」「脳内出血」「脳血管疾患」が高くなっています。

【死因別年間死亡者数・標準化死亡比】



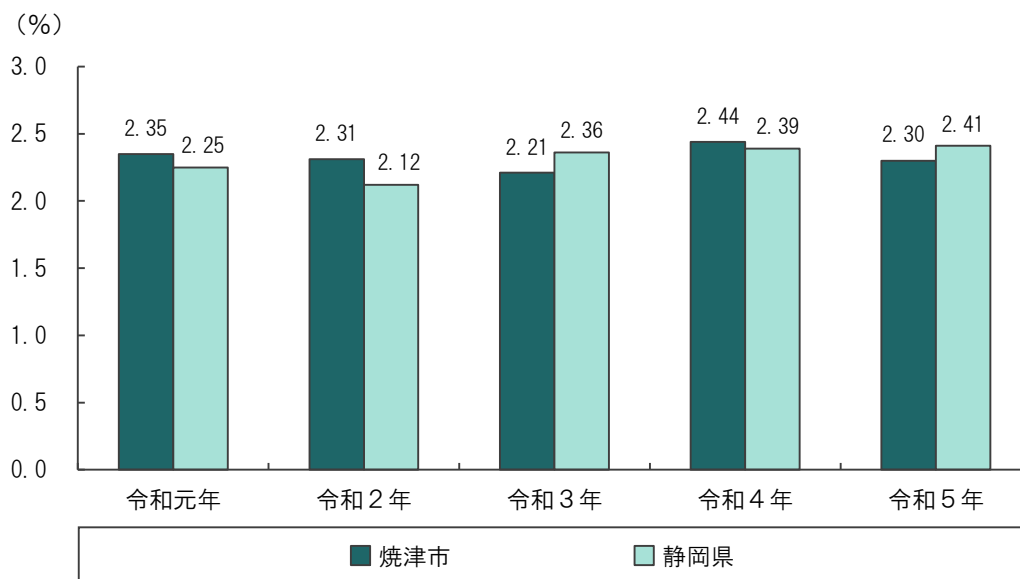
※標準化死亡比は、平成29年～令和3年の合計死亡数による。ただし、死亡者数は、年平均人数。

資料：静岡県（2017（平成29）年～2021（令和3年）標準化死亡比（SMR））

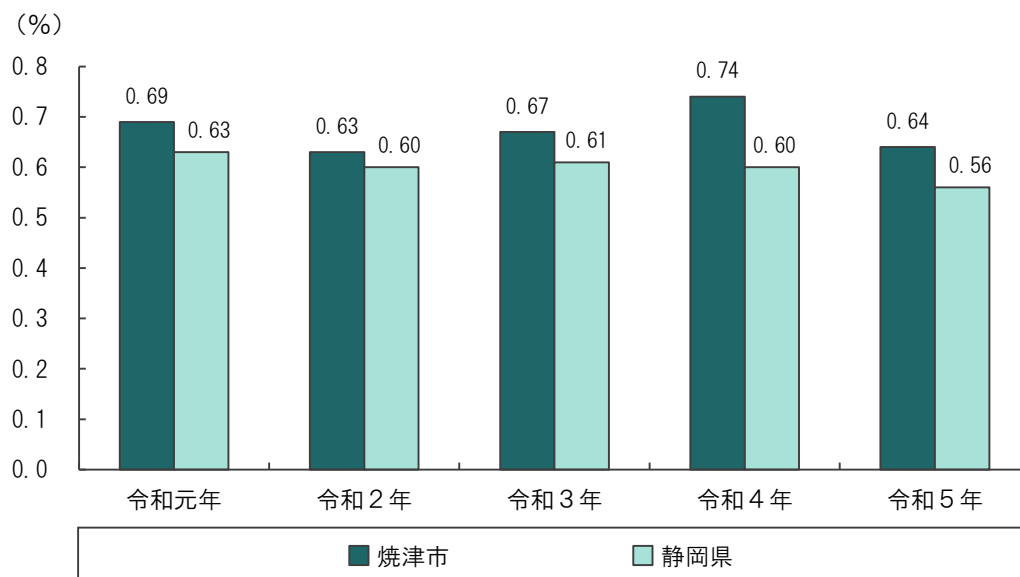
(8) 疾病分類別医療機関受診状況の推移

国民健康保険における悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、精神疾患の各疾病分類別の医療機関受診状況をみると、悪性新生物は2021（令和3）年と2023（令和5）年において、精神疾患は2022（令和4）年以降において県平均を下回っています。一方、心疾患、脳血管疾患、糖尿病は、一貫して県平均を上回って推移しています。

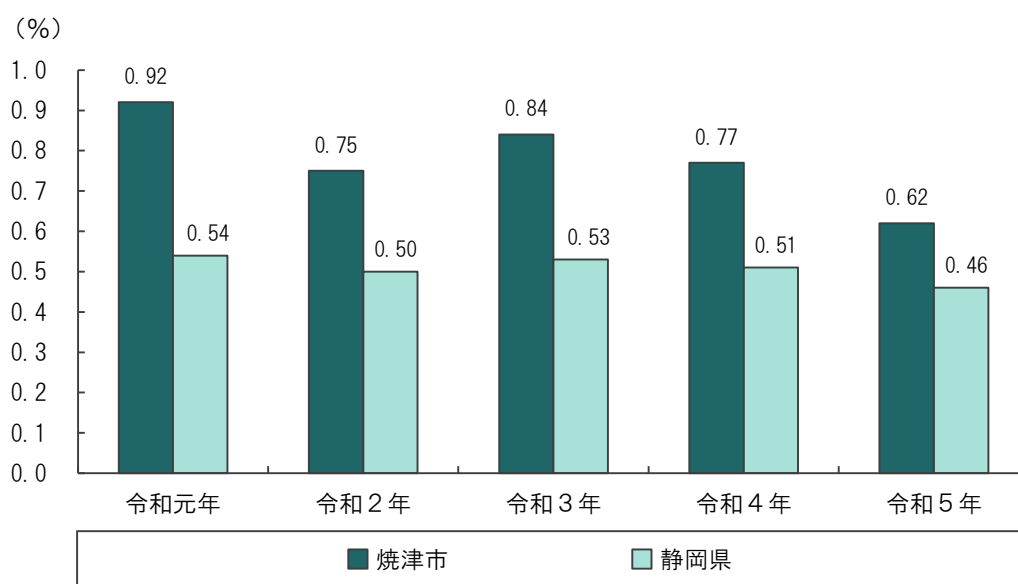
【悪性新生物 医療機関受診状況の推移】



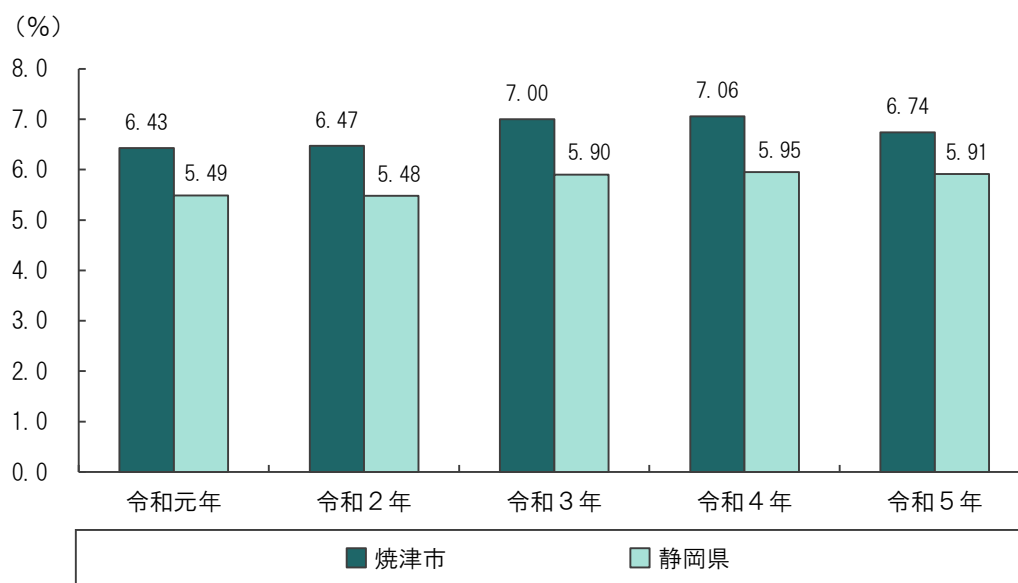
【心疾患 医療機関受診状況の推移】



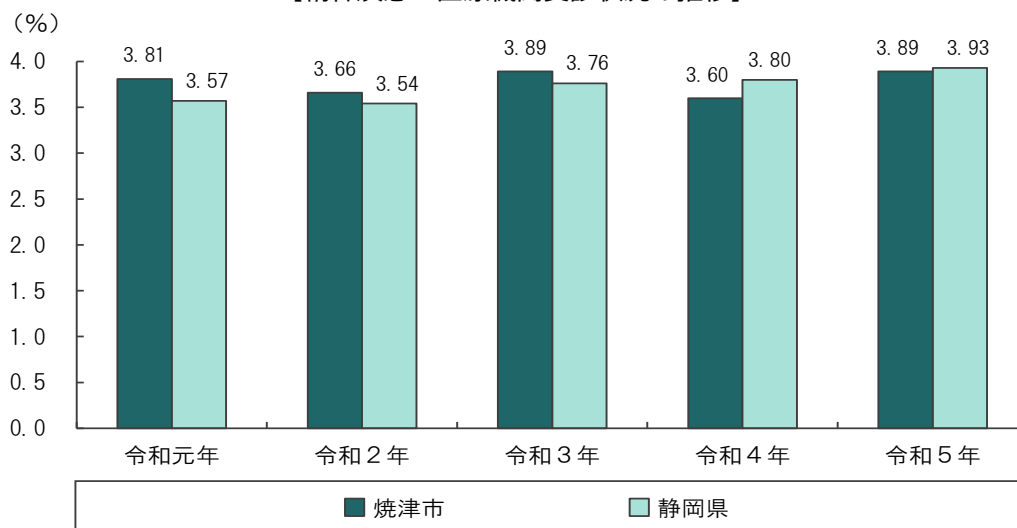
【脳血管疾患 医療機関受診状況の推移】



【糖尿病 医療機関受診状況の推移】



【精神疾患 医療機関受診状況の推移】



資料：静岡県国民健康保険団体連合会（各年5月診療分）

（9）医療費の状況の推移

本市の国民健康保険の被保険者数及び医療費は減少傾向にあります。県と比較すると、一人あたり医療費は、2019（令和元）年度まで県を上回っていましたが、2020（令和2）年度以降は下回る水準で推移しています。一件あたり医療費は、2022（令和4）年度までは県を下回っていましたが、2023（令和5）年度は県を上回っています。

【国民健康保険被保険者と医療費の推移】

		令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
被保険者数（人）		30,106	29,495	28,905	27,776	26,145
費用額全体（円）		10,350,812,010	9,727,076,240	10,164,975,940	10,027,424,080	9,735,378,840
一人あたり医療費（円）	焼津市	343,812	329,787	351,668	361,010	372,361
	静岡県	341,922	338,174	356,625	363,326	375,604
一件あたり医療費（円）	焼津市	31,128	31,457	32,469	33,063	33,848
	静岡県	31,868	33,192	33,275	33,145	33,696

資料：静岡県国民健康保険団体連合会（各年度末現在）

後期高齢者医療費と介護費の推移をみると、一人あたり医療費は増加傾向にあり、2022（令和4）年度において879,256円となっています。県と比較すると、県平均を上回って推移しています。

一人あたり介護費は、2020（令和2）年以降300,000円を超える水準で推移しており、2022（令和4）年度において301,750円となっています。県と比較すると、県平均を下回って推移しています。

【後期高齢者医療費と介護費の推移】

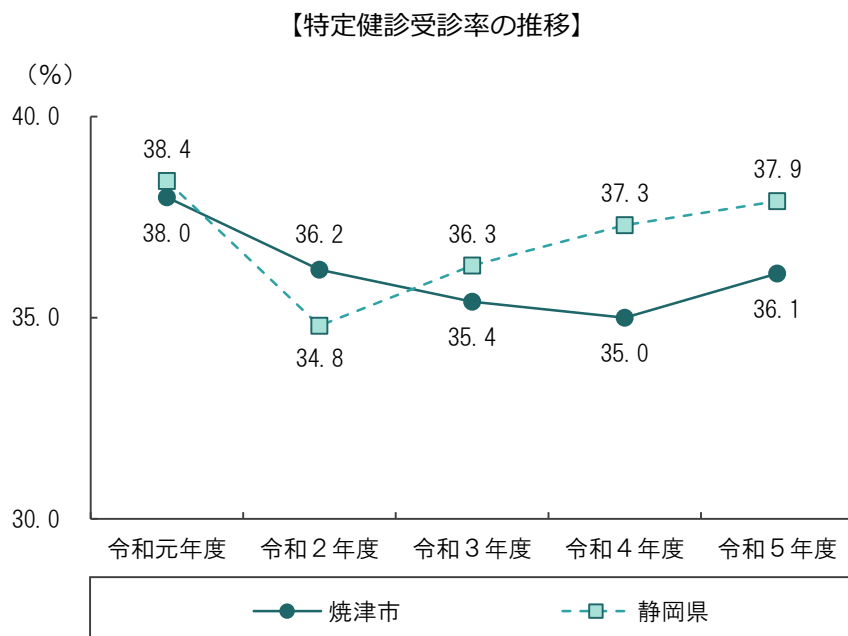
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一人あたり医療費（円）	焼津市	864,786	862,780	877,507	879,256
	静岡県	820,207	793,157	819,114	831,397
一人あたり介護費（円）	焼津市	291,543	302,776	303,559	301,750
	静岡県	302,378	309,819	313,966	315,660

資料：医療費＝静岡県後期高齢者医療広域連合（各年度末現在）

介護費＝静岡県国民健康保険団体連合会（各年度末現在）

(10) 特定健診受診率の推移

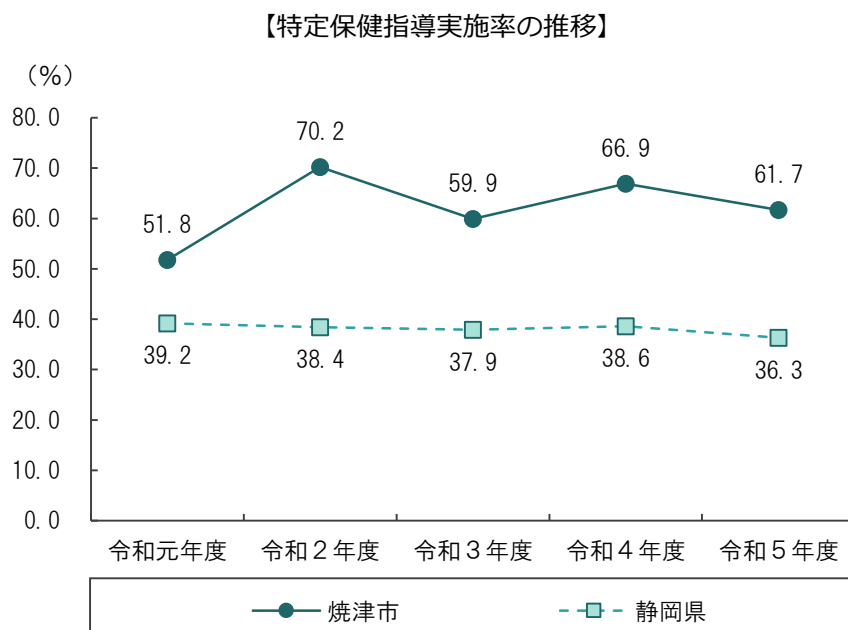
国民健康保険の特定健診受診率の推移をみると、減少傾向にあり、2023（令和5）年度において36.1%となっています。県と比較すると、2021（令和3）年度以降は県を下回って推移しています。



資料：国民健康保険法定報告（各年度末現在）

(11) 特定保健指導実施率の推移

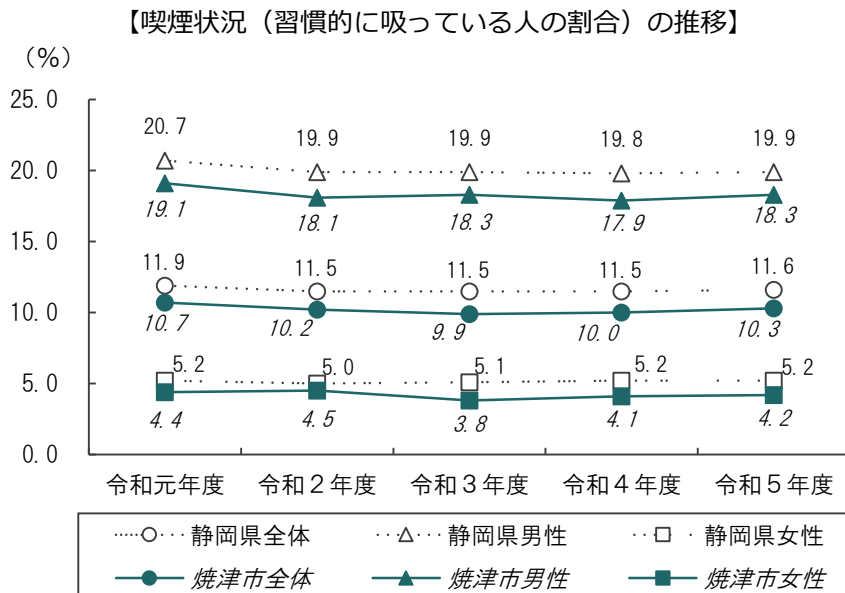
特定保健指導の実施率の推移をみると、2023（令和5）年度は61.7%となっています。県と比較すると、県を大きく上回って推移しています。



資料：国民健康保険法定報告（各年度末現在）

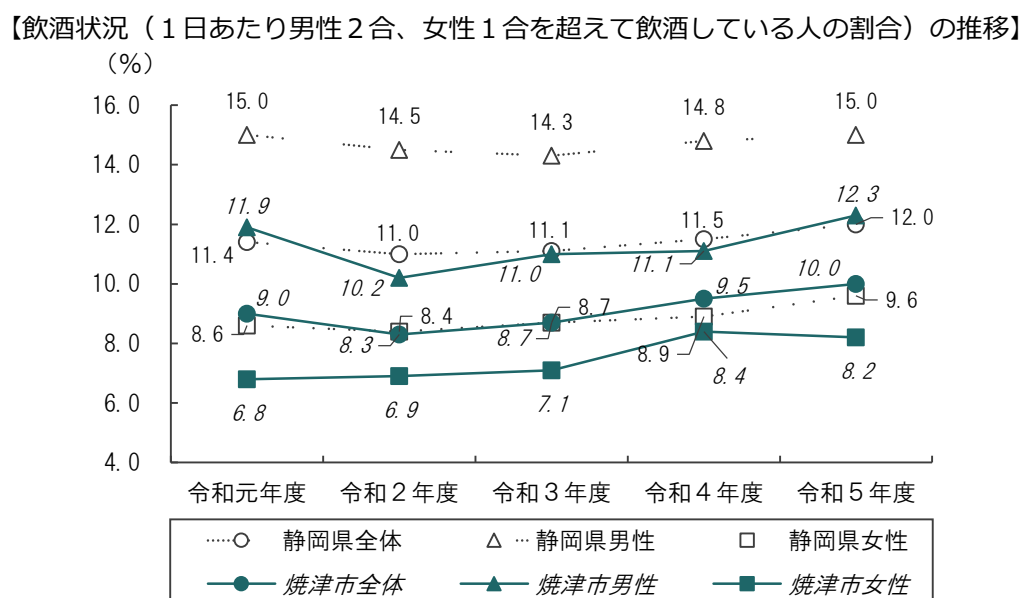
(12) 喫煙状況・飲酒状況の推移

特定健診による喫煙状況（習慣的に吸っている人の割合）の推移をみると、おおむね横ばいで推移しており、2023（令和5）年度は10.3%（男性18.3%、女性4.2%）となっています。男女ともに、県を下回る水準を維持しています。



資料：静岡県国民健康保険団体連合会（各年度末現在）

特定健診による飲酒状況（1日あたり男性2合、女性1合を超えて飲酒している人の割合）の推移をみると、やや増加傾向にあり、2023（令和5）年度は10.0%（男性12.3%、女性8.2%）となっています。男女ともに、喫煙状況と同様に県を下回る水準を維持しています。

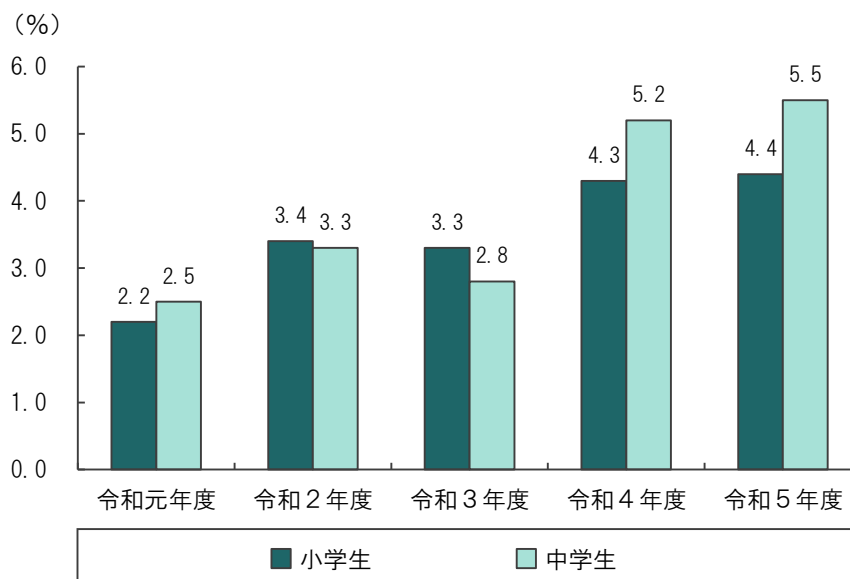


資料：静岡県国民健康保険団体連合会（各年度末現在）

(13) 児童・生徒の肥満者・高コレステロール者の割合の推移

小児生活習慣病健診による児童・生徒の肥満者の割合の推移をみると、どちらも増加傾向となっており、2023（令和5）年度は小学生において4.4%、中学生においては5.5%となっています。

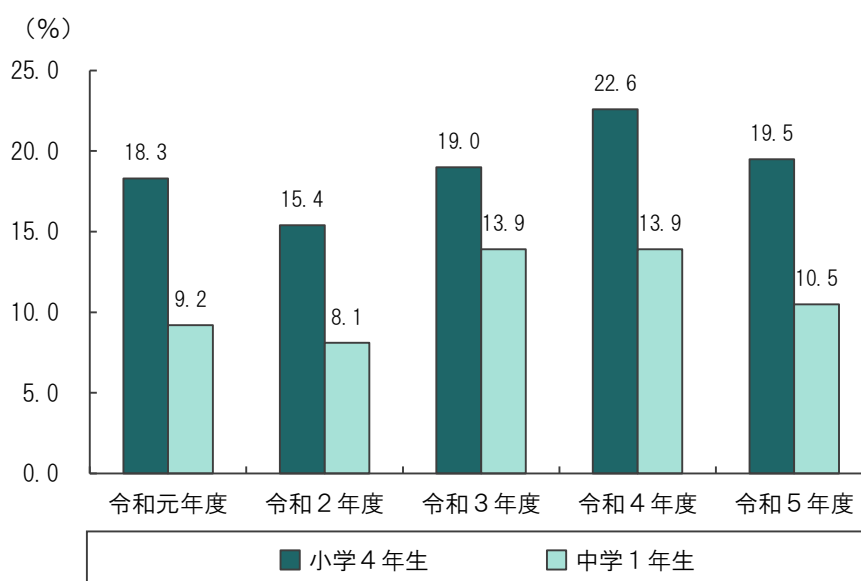
【児童・生徒の肥満者の割合の推移】



資料：市小中学校定期健康診断結果

児童・生徒の高コレステロール者の割合の推移をみると、小学4年生において高い割合で推移しています。

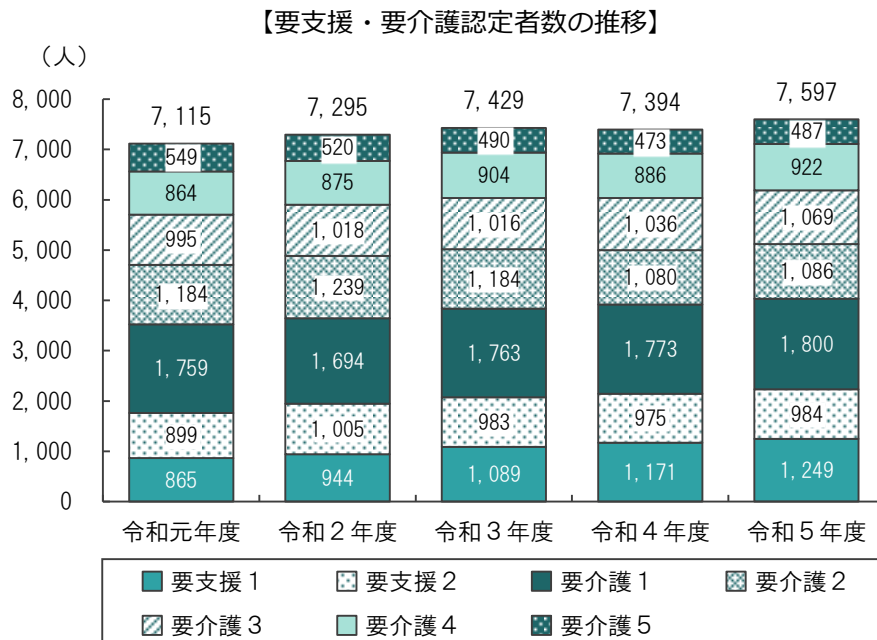
【児童・生徒の高コレステロール者の割合の推移】



資料：小児生活習慣病予防健診結果報告（各年度末現在）

(14) 要支援・要介護認定者数の推移

要支援・要介護認定者数の推移をみると、総数は年々増加しており、2023（令和5）年度は7,597人となっています。要介護度別にみると、要支援1は2023（令和5）年度において1,249人と、2019（令和元）年度と比較して384人増加しており、増加幅が最も大きくなっています。



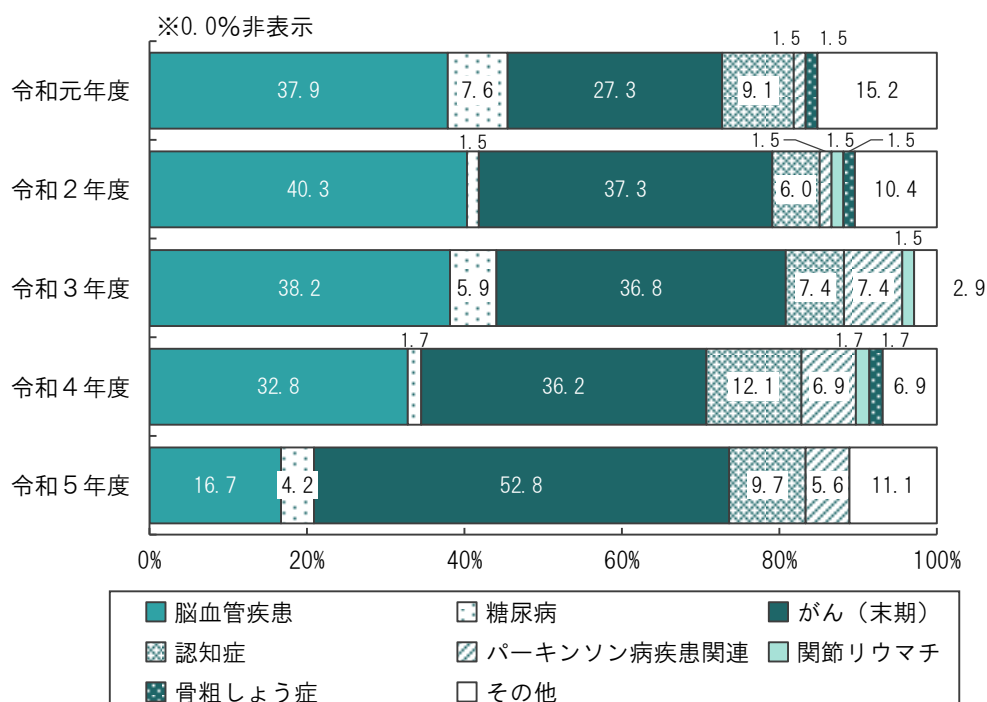
資料：介護保険課（各年度末現在）

(15) 介護保険第2号被保険者 新規要介護認定者の原因疾患の割合の推移

介護保険第2号被保険者（40歳以上 65歳未満）のうち、2023（令和5）年度に新規で要介護認定を受けた人の要介護となった原因疾患は、「がん（末期）」が52.8%と最も多く、次いで「脳血管疾患」が16.7%、「認知症」が9.7%などとなっており、これらが全体の約8割を占めています。

2019（令和元）年度からの推移をみると、「がん（末期）」は2020（令和2）年度以降おおむね横ばいで推移していましたが、2023（令和5）年度では大きく増加しています。一方、「脳血管疾患」は2020（令和2）年度以降減少傾向にあり、2023（令和5）年度では大きく減少しています。

【介護保険第2号被保険者 新規要介護認定者の原因疾患の割合の推移】

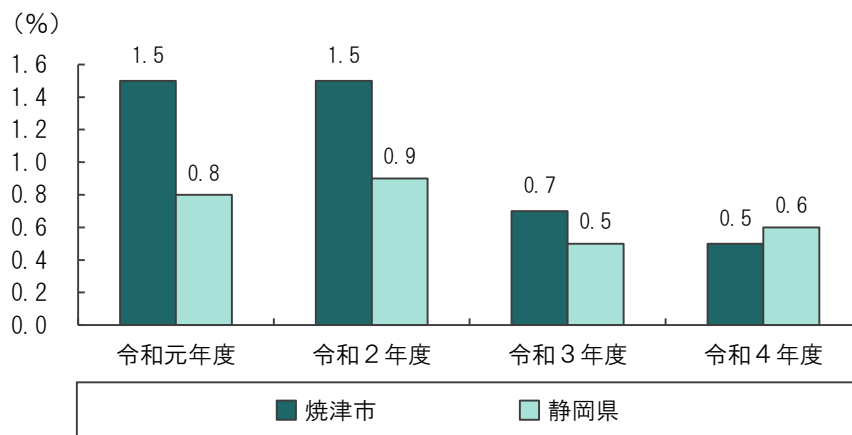


資料：介護保険課（各年度末現在）

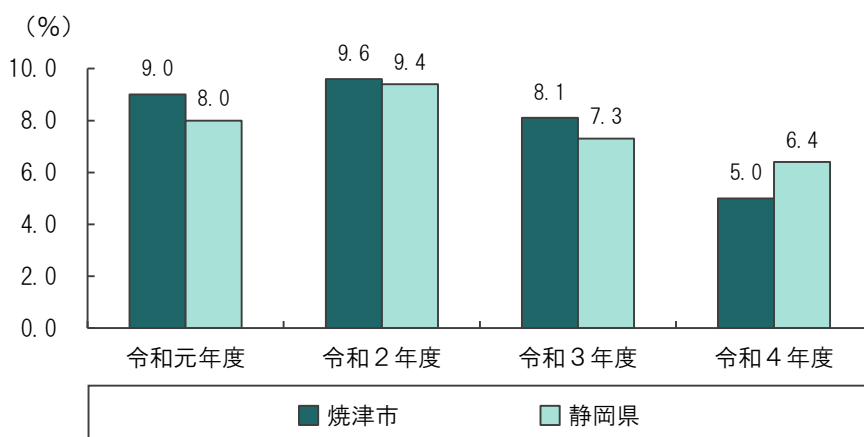
(16) こどものむし歯に関する状況の推移

こどものむし歯の有病率の推移をみると、いずれの年齢においても減少傾向にあります。県と比較すると、1歳6か月児と3歳児は2022（令和4）年度、5歳児（乳歯）は2021（令和3）年度と2023（令和5）年度において、県平均を下回っています。

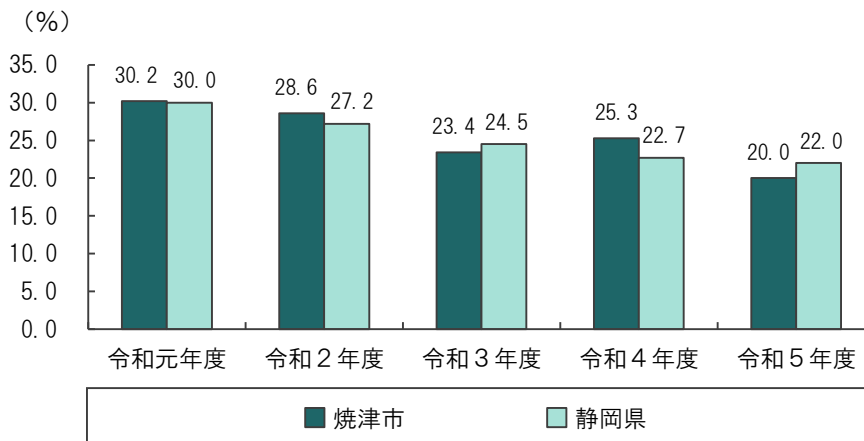
【1歳6か月児 むし歯の有病率の推移】



【3歳児 むし歯の有病率の推移】



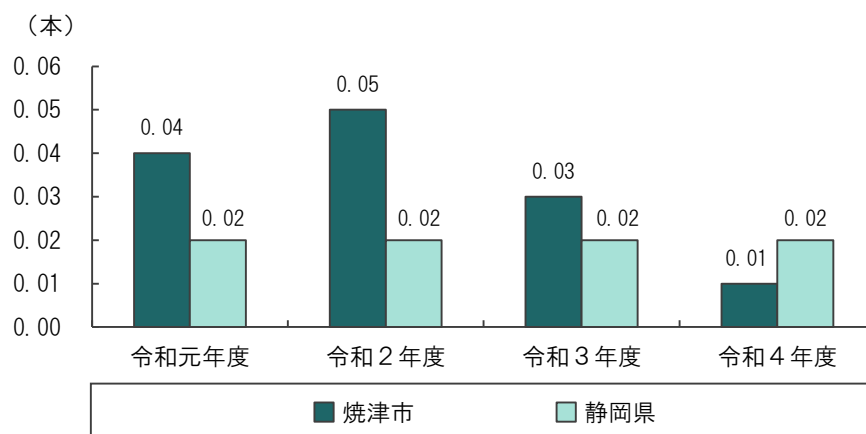
【5歳児（乳歯） むし歯の有病率の推移】



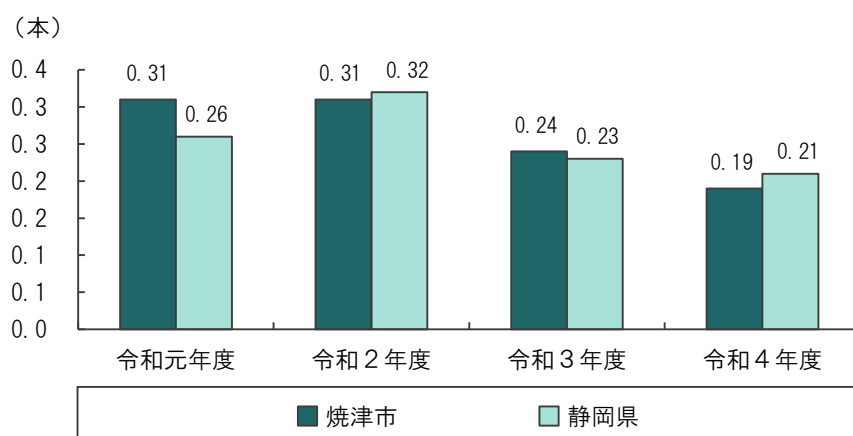
資料：静岡県歯科健康診査結果及び歯科調査結果（各年度末現在）

むし歯の本数の推移をみると、3歳児、5歳児（乳歯）において、県平均とおおむね同程度で推移しています。1歳6か月児においては、2021（令和3）年度までは県平均を上回っていましたが、2022（令和4）年度は下回っています。

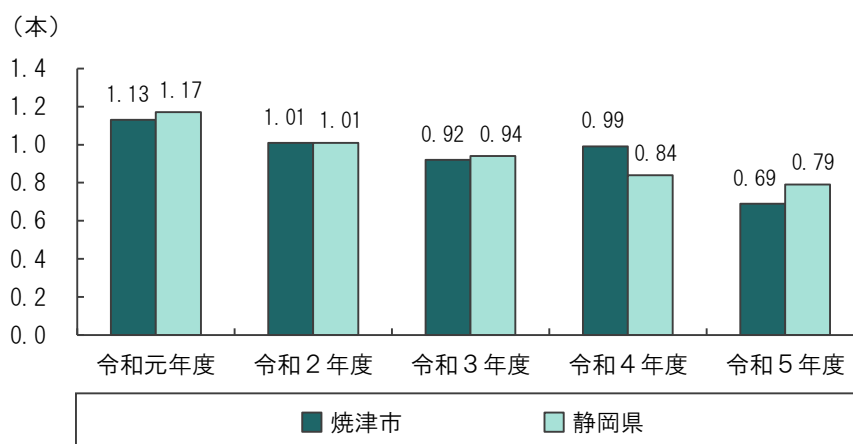
【1歳6か月児 むし歯の本数の推移】



【3歳児 むし歯の本数の推移】



【5歳児（乳歯） むし歯の本数の推移】

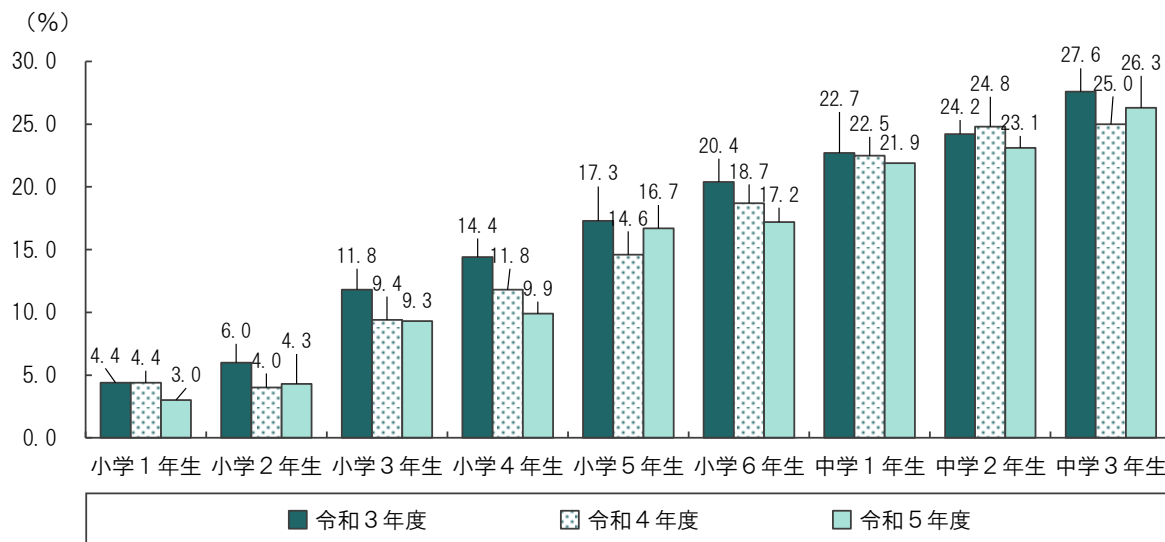


資料：静岡県歯科健康診査結果及び歯科調査結果（各年度末現在）

(17) 児童・生徒のむし歯有病者率の推移

児童・生徒のむし歯有病者率の推移をみると、学年が上がるにつれ多くなっています。一方、学年別でみると、いずれの学年においても減少傾向がみられます。

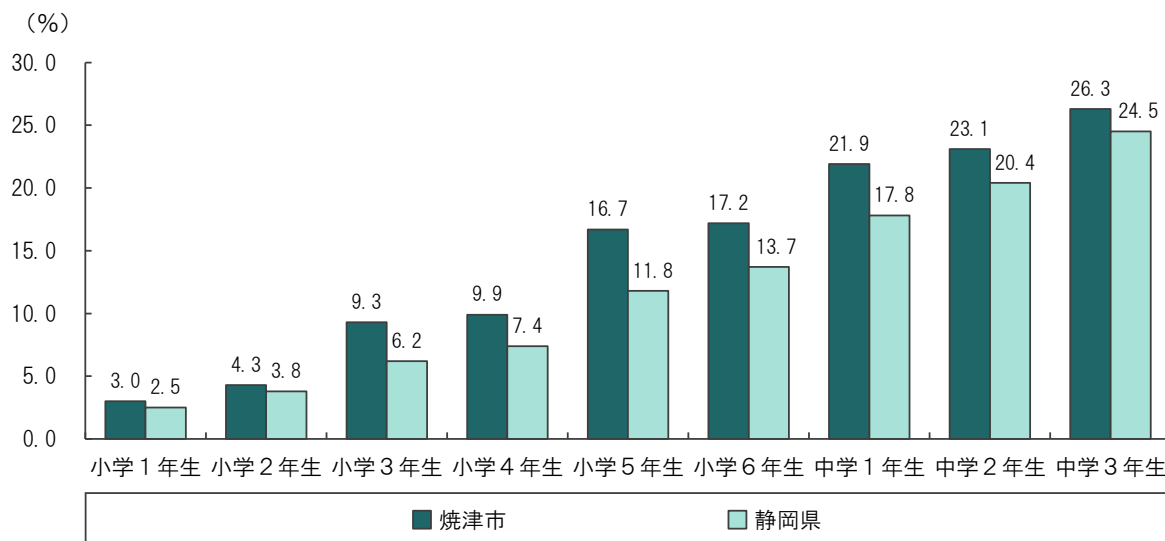
【児童・生徒のむし歯有病者率の推移】



資料：静岡県歯科医師会学校歯科保健調査結果（各年度末現在）

児童・生徒のむし歯有病者率を県と比較すると、いずれの学年においても県平均を上回っています。

【児童・生徒のむし歯有病者率 県との比較（2023（令和5）年度）】

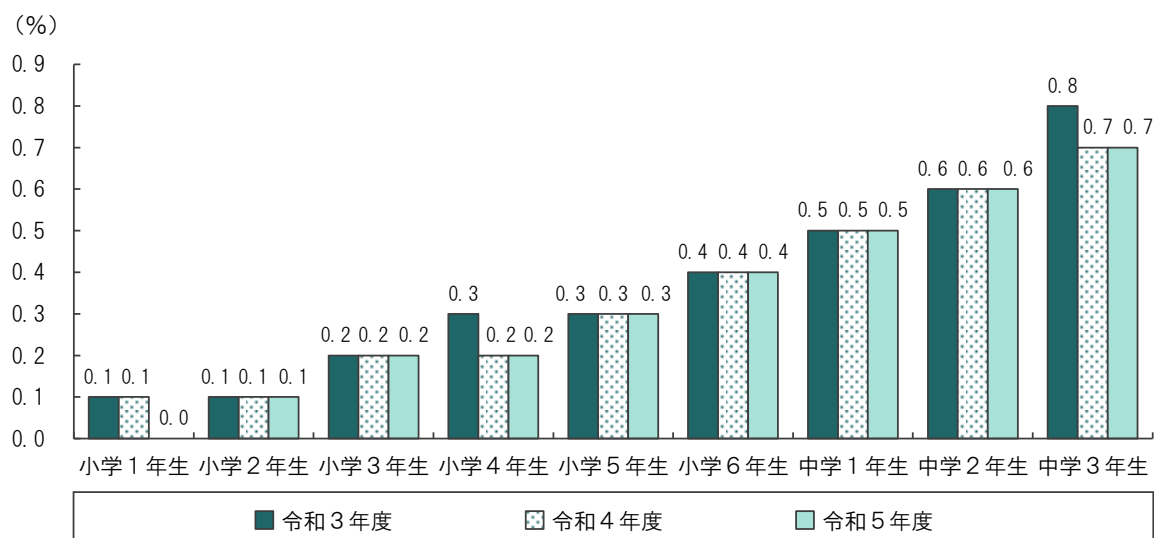


資料：静岡県歯科医師会学校歯科保健調査結果（年度末現在）

(18) 児童・生徒のDMFT指数

児童・生徒のDMFT指数（一人平均永久歯う蝕経験歯数：未処置のむし歯、むし歯が原因で抜去された歯と処置された歯の一人あたり本数）の推移をみると、いずれの学年においてもおおむね横ばいで推移しています。

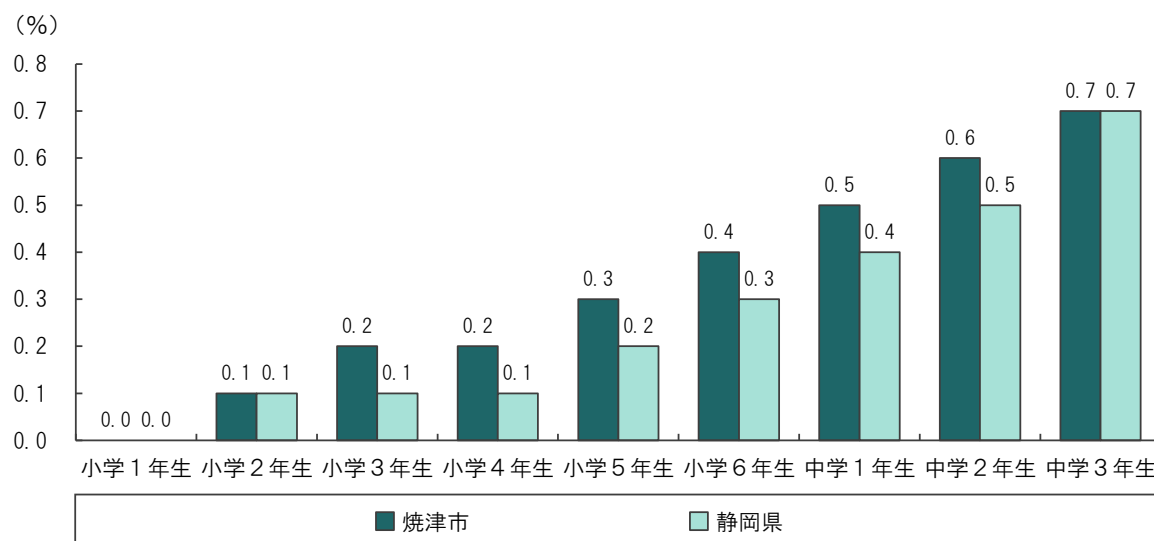
【児童・生徒のDMFT指数の推移】



資料：静岡県歯科医師会学校歯科保健調査結果（各年度末現在）

児童・生徒のDMFT指数を県と比較すると、ほとんどの学年において県平均を上回っています。

【児童・生徒のDMFT指数 県との比較（2023（令和5）年度）】

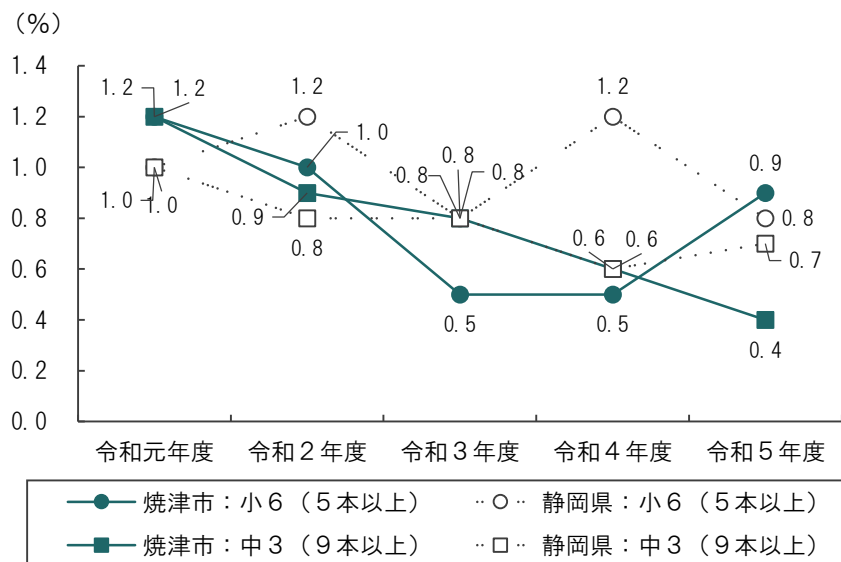


資料：静岡県歯科医師会学校歯科保健調査結果（年度末現在）

(19) むし歯多発児割合の推移

むし歯多発児割合（小学6年生：5本以上、中学3年生：9本以上）の推移をみると、小学6年生は2022（令和4）年度まで県平均を下回っていましたが、2023（令和5）年度では上回っています。一方、中学3年生は年々減少しており、2023（令和5）年度では県平均を下回っています。

【むし歯多発児割合の推移】



資料：静岡県歯科医師会学校歯科保健調査結果（各年度末現在）

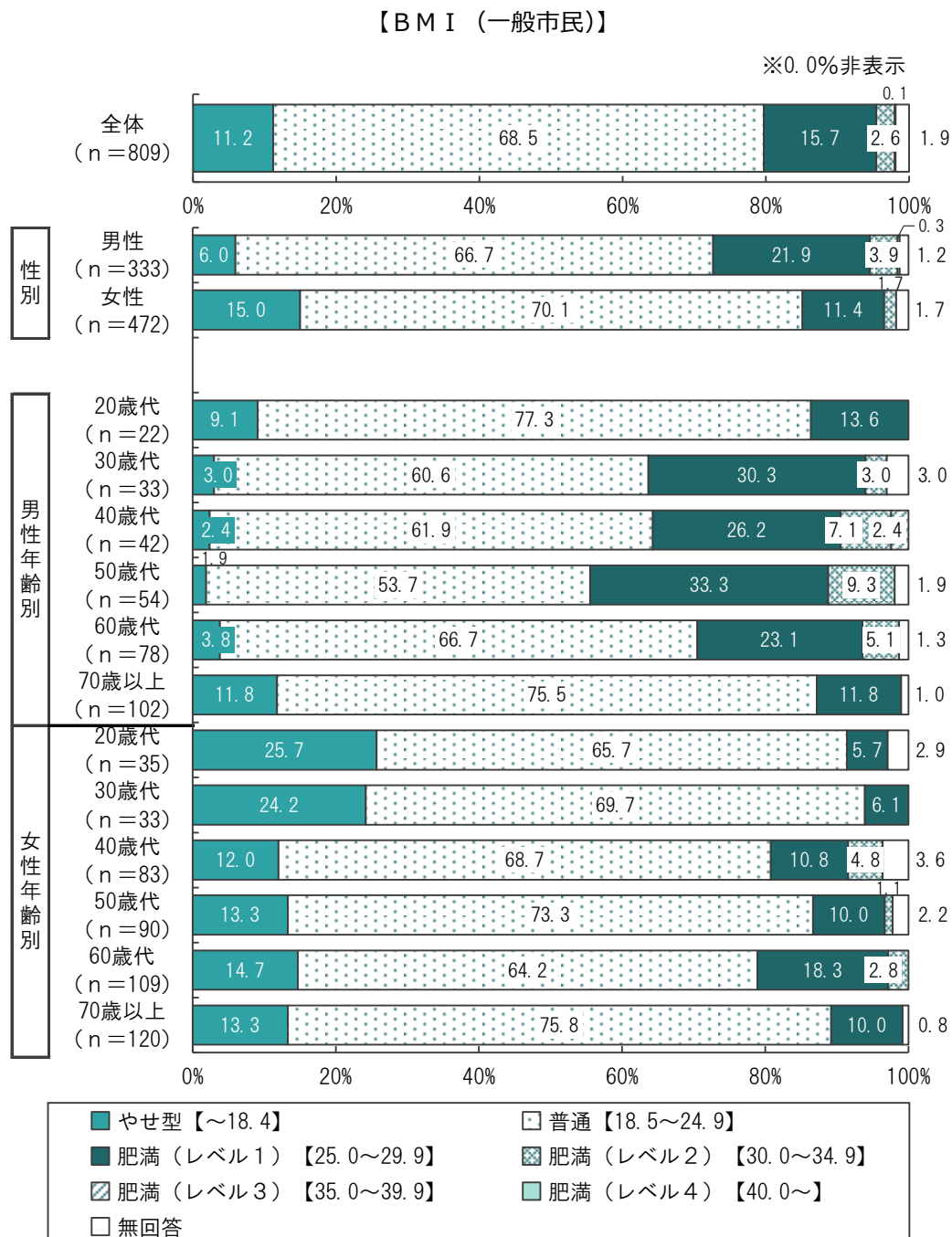
第2節 アンケート調査結果からみる焼津市の健康課題

(1) BMI

2023（令和5）年度に実施した焼津市健康・食育に関するアンケート調査では、一般市民（20歳以上）のBMI（身長と体重から示す肥満度）について、「普通【18.5～24.9】」が68.5%（前回2016（平成28）年度調査比－2.0ポイント）と約7割を占めて最も多くなっています。

男性の年齢別でみると、「肥満（レベル1）【25.0～29.9】」が30歳代と50歳代において3割を超えて多くなっています。

女性の年齢別でみると、「やせ型【～18.4】」が20歳代と30歳代において2割以上と多くなっています。



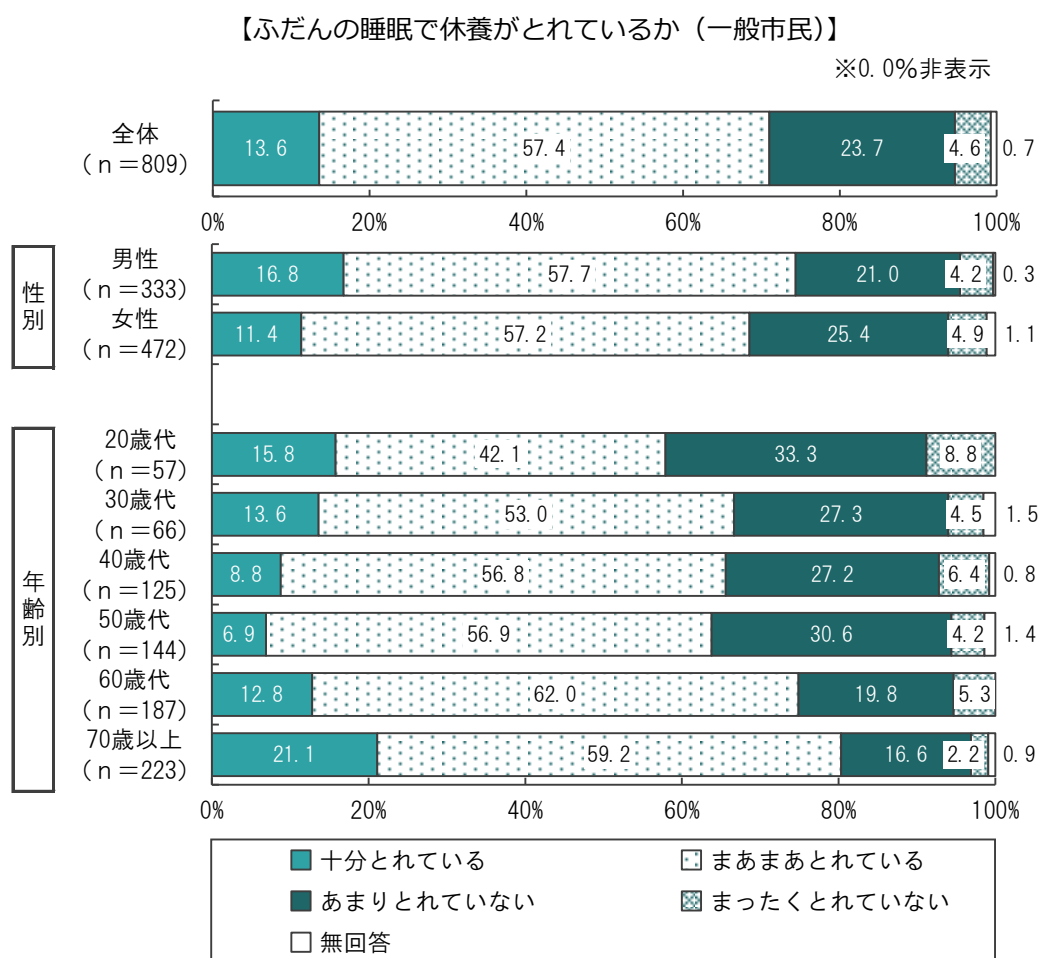
資料：2023（令和5）年度 焼津市健康・食育に関する実態調査報告書

(2) ふだんの睡眠で休養が取れているか

一般市民(20歳以上)のふだんの睡眠で休養がとれているかについて、「まあまあとれている」が57.4%(前回2016(平成28)年度調査比-1.7ポイント)と最も多くなっています。また、『とれていない』(「あまりとれていない」+「まったくとれていない」)は28.3%(同+7.0ポイント)と約3割を占めています。

性別でみると、男性において「十分とれている」が16.8%と女性の11.4%より多くなっています。女性においては「あまりとれていない」が25.4%と男性の21.0%より多くなっています。

年齢別でみると、『とれていない』は20歳代(42.1%)、50歳代(34.8%)、40歳代(33.6%)の順に多くなっています。



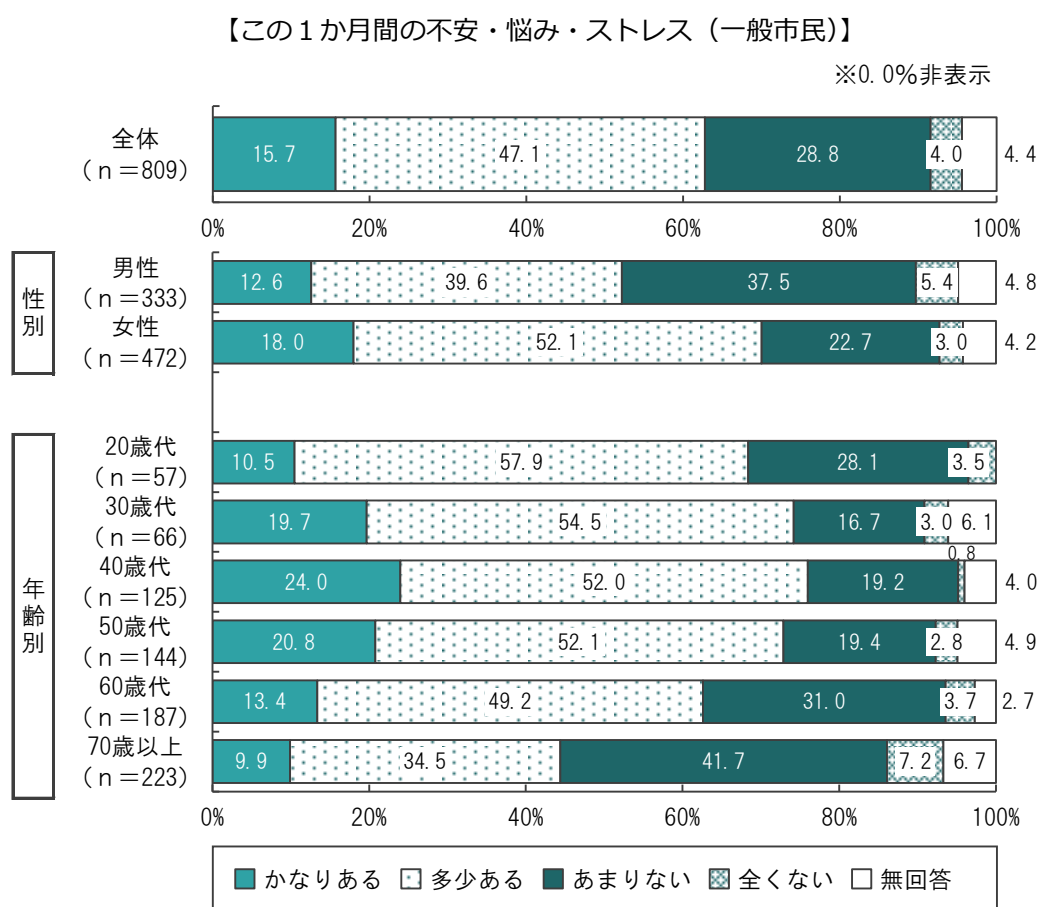
資料：2023(令和5)年度 焼津市健康・食育に関する実態調査報告書

(3) この1か月間の不安・悩み・ストレス

一般市民（20歳以上）のこの1か月間の不安・悩み・ストレスについて、「多少ある」が47.1%（前回2016（平成28）年度調査比+1.4ポイント）と最も多くなっています。また、『ある』（「かなりある」+「多少ある」）は62.8%（同+2.8ポイント）、『ない』（「あまりない」+「まったくない」）は32.8%（同-3.2ポイント）となっています。

性別でみると、『ある』は女性が70.1%と男性の52.2%を大きく上回り、約7割となっています。

年齢別でみると、『ある』は40歳代（76.0%）、30歳代（74.2%）、50歳代（72.9%）の順に多くなっています。



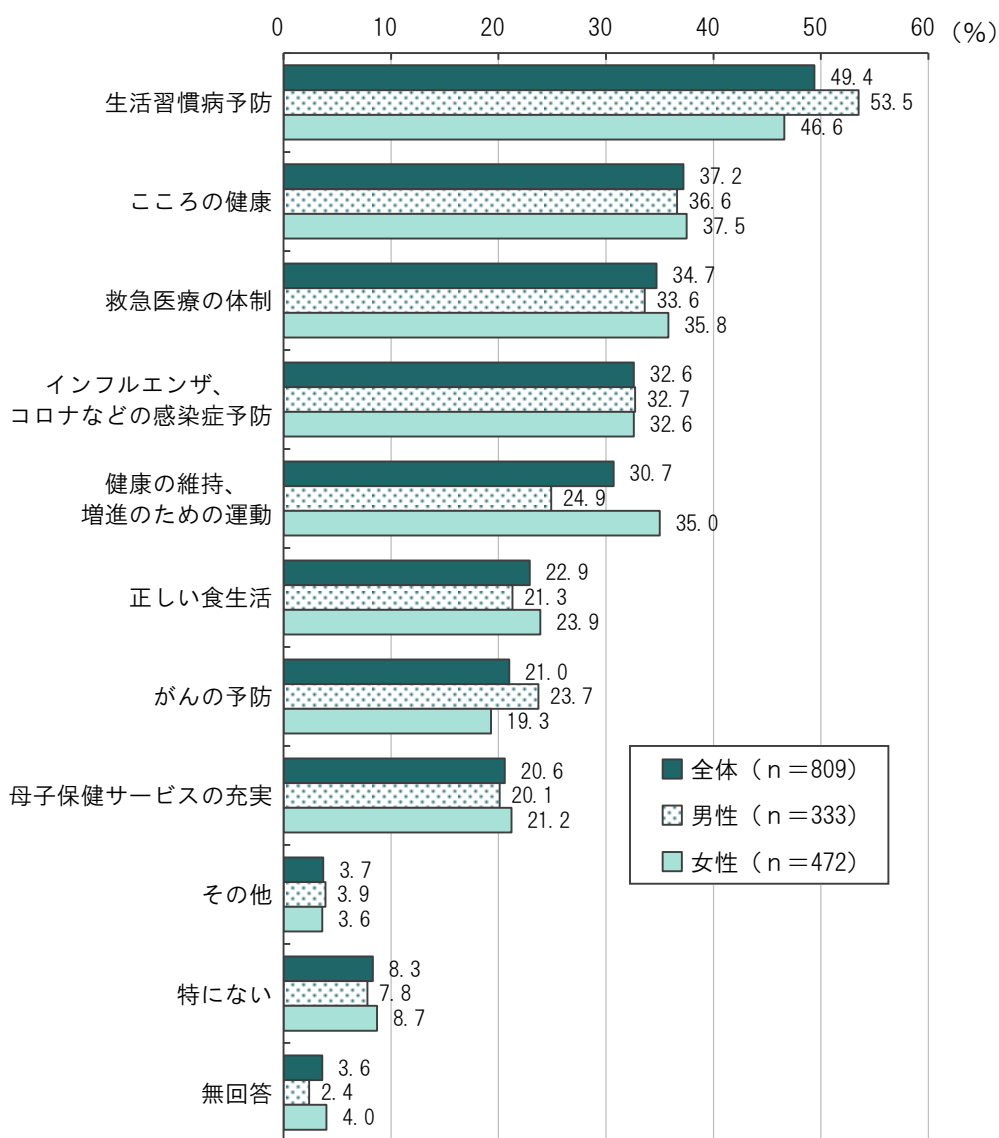
資料：2023（令和5）年度 焼津市健康・食育に関する実態調査報告書

(4) 市民の健康増進のために焼津市で力を入れるべきだと思うこと

一般市民(20歳以上)の市民の健康増進のために焼津市で力を入れるべきだと思うことについて、「生活習慣病予防」が49.4%(前回2016(平成28)年度調査比+19.5ポイント)と最も多く、次いで「こころの健康」が37.2%(同+8.2ポイント)、「救急医療の体制」が34.7%(同-2.3ポイント)などとなっています。

性別でみると、男性において「生活習慣病予防」が53.5%と女性の46.6%より多くなっています。女性においては「健康の維持、増進のための運動」が35.0%と男性の24.9%より多くなっています。

【市民の健康増進のために焼津市で力を入れるべきだと思うこと(一般市民)】



資料：2023(令和5)年度 焼津市健康・食育に関する実態調査報告書

(5) 地域ぐるみで健康づくりを進めるために最も重要だと思うこと

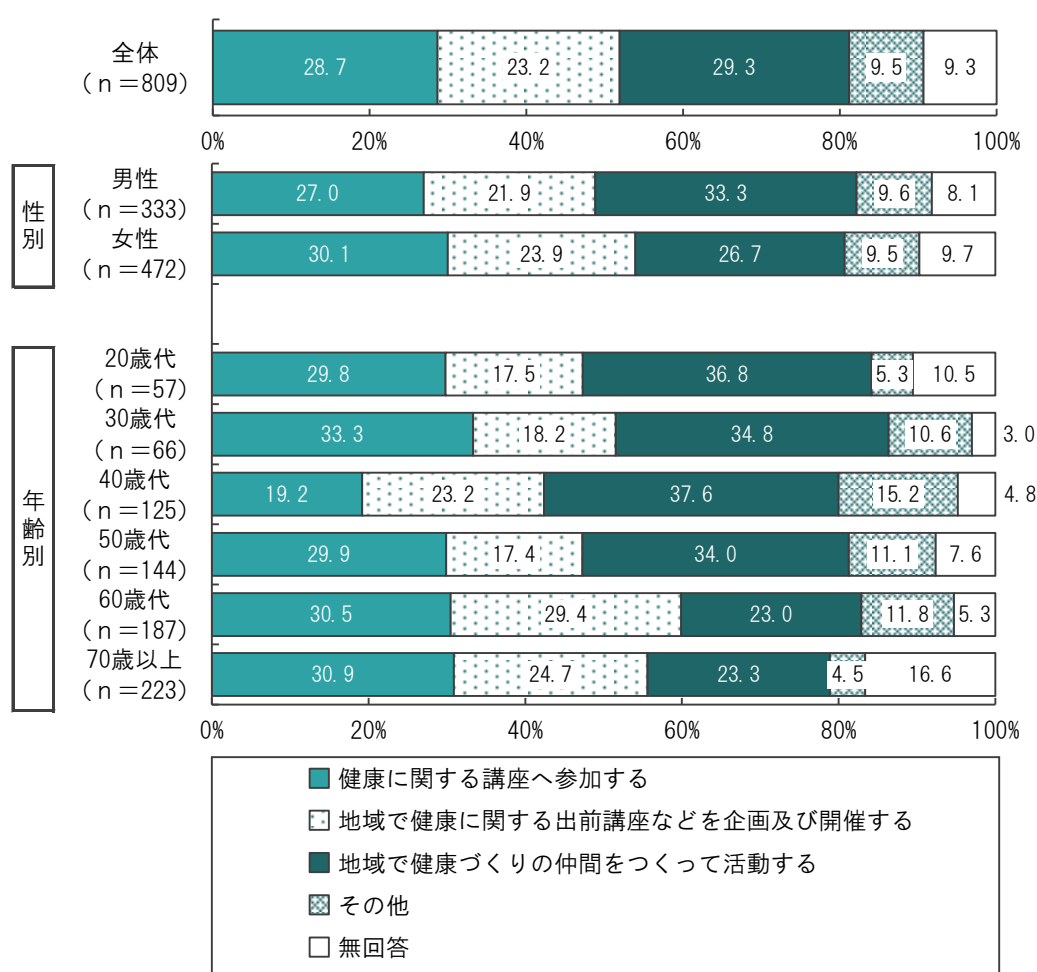
一般市民（20歳以上）の地域ぐるみで健康づくりを進めるために最も重要だと思うことについて、「地域で健康づくりの仲間をつくって活動する」が29.3%と最も多く、次いで「健康に関する講座へ参加する」が28.7%、「地域で健康に関する出前講座などを企画及び開催する」が23.2%などとなっています。

性別でみると、男性において「地域で健康づくりの仲間をつくって活動する」が33.3%と女性の26.7%より多くなっています。

年齢別でみると、50歳代以下では「地域で健康づくりの仲間をつくって活動する」、60歳代以上では「健康に関する講座へ参加する」がそれぞれ最も多く、3～4割となっています。

【地域ぐるみで健康づくりを進めるために最も重要だと思うこと（一般市民）】

※0.0%非表示



資料：2023（令和5）年度 焼津市健康・食育に関する実態調査報告書

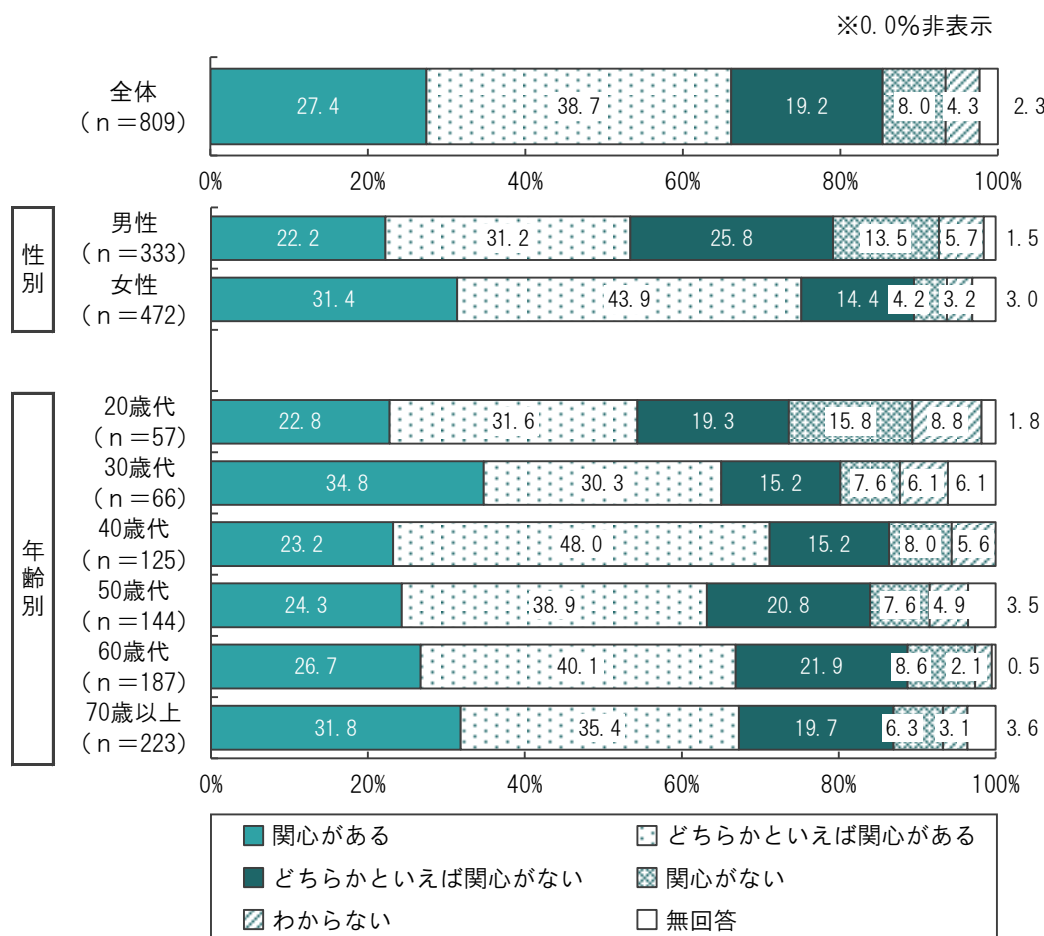
(6)「食育」に対する関心

一般市民(20歳以上)の「食育」に対する関心について、『関心がある』(「関心がある」+「どちらかといえば関心がある」)が66.1%(前回2016(平成28)年度調査比+2.7ポイント)、『関心がない』(「どちらかといえば関心がない」+「関心がない」)が27.2%(同+1.6ポイント)となっており、『関心がある』が38.9ポイント上回っています。

性別でみると、『関心がある』は女性が75.3%と男性の53.4%を大きく上回り、7割以上となっています。

年齢別でみると、30歳代において「関心がある」が34.8%と他の年代と比べて最も多くなっています。また、『関心がある』は40歳代が71.2%と約7割を占めています。

【「食育」に対する関心(一般市民)】



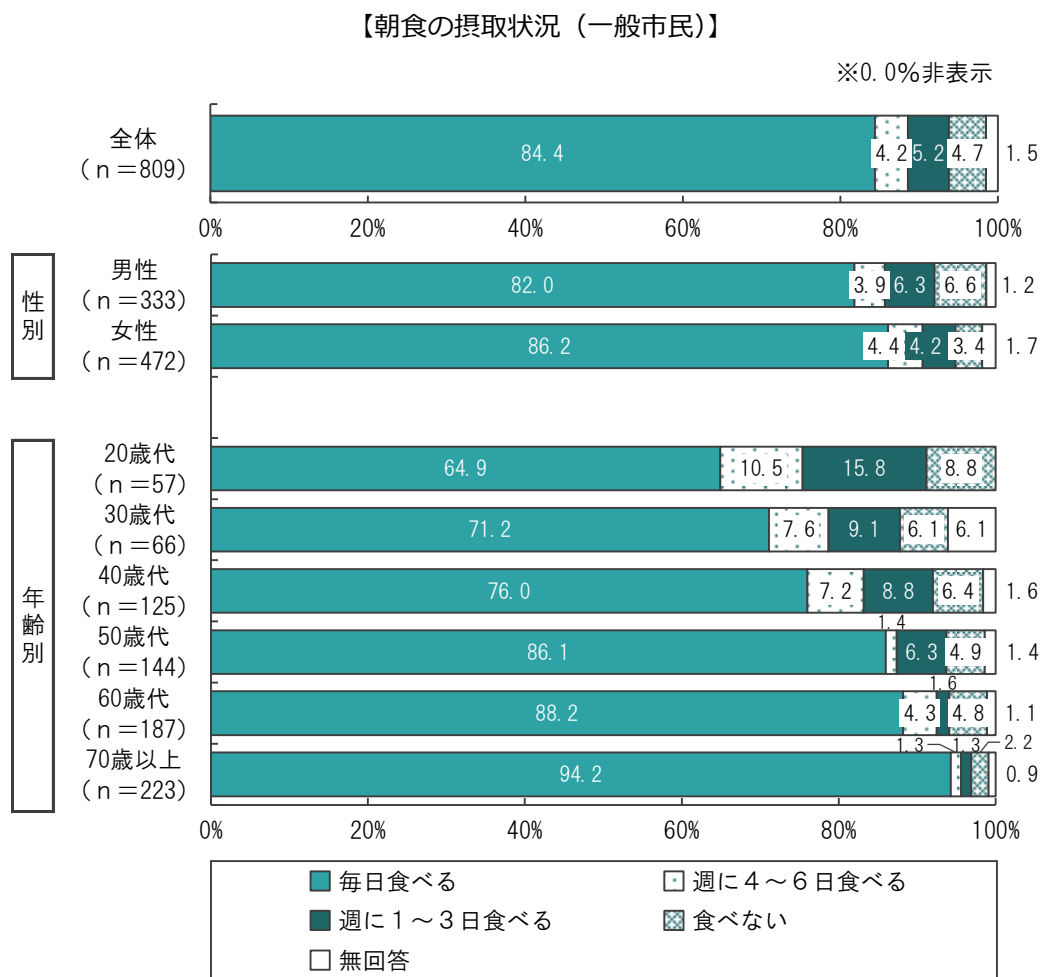
資料：2023(令和5)年度 焼津市健康・食育に関する実態調査報告書

(7) 朝食の摂取状況

一般市民（20歳以上）の朝食の摂取状況について、「毎日食べる」が84.4%（前回2016（平成28）年度調査±0ポイント）とほとんどを占めており、「食べない」が4.7%（同+0.1ポイント）となっています。

性別でみると、女性において「毎日食べる」が86.2%と男性の82.0%よりやや多くなっています。

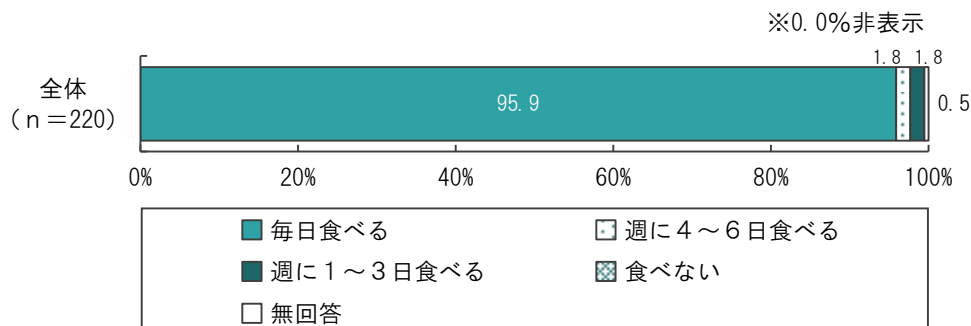
年齢別でみると、20歳代において「週に1～3日食べる」（15.8%）、「食べない」（8.8%）が他の年代と比べて多くなっています。また、「毎日食べる」は年齢が高くなるにつれ多くなり、70歳以上では94.2%とほとんどを占めています。



資料：2023（令和5）年度 焼津市健康・食育に関する実態調査報告書

3歳児の朝食の摂取状況については、「毎日食べる」が95.9%（前回2016（平成28）年度調査比+7.8ポイント）とほとんどを占めて最も多く、「週に4～6日食べる」が1.8%（同-2.2ポイント）、「週に1～3日食べる」も同じく1.8%（同+0.5ポイント）となっています。

【朝食の摂取状況（3歳児）】

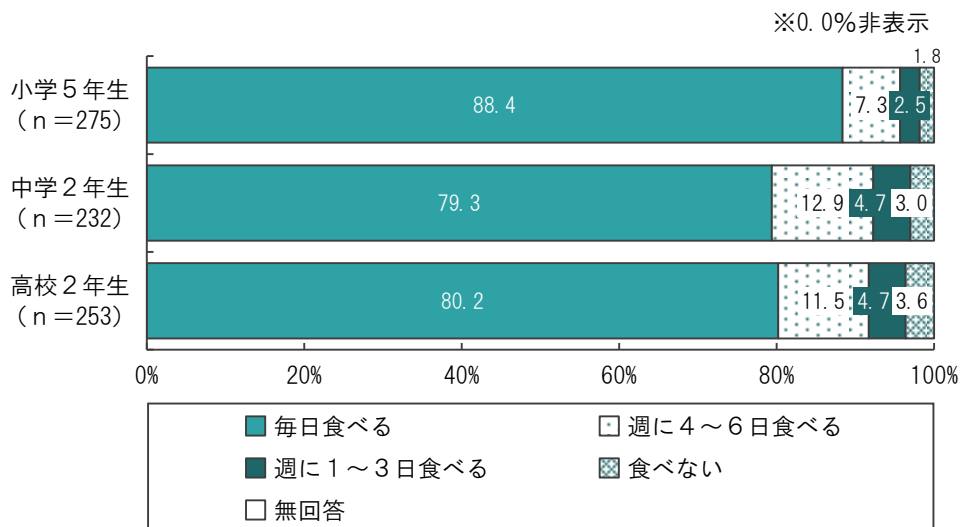


資料：2023（令和5）年度 焼津市健康・食育に関する実態調査報告書

小・中・高校生の朝食の摂取状況については、いずれの学年においても「毎日食べる」が最も多く、小学5年生は88.4%（前回2016（平成28）年度調査比+2.6ポイント）、中学2年生は79.3%（同+0.2ポイント）、高校2年生は80.2%（同-4.9ポイント）となっています。

一方、「食べない」が小学5年生は1.8%（同+0.7ポイント）、中学2年生は3.0%（同-0.1ポイント）、高校2年生は3.6%（同+1.2ポイント）となっており、小学5年生と高校2年生において増加しています。

【朝食の摂取状況（小・中・高校生）】



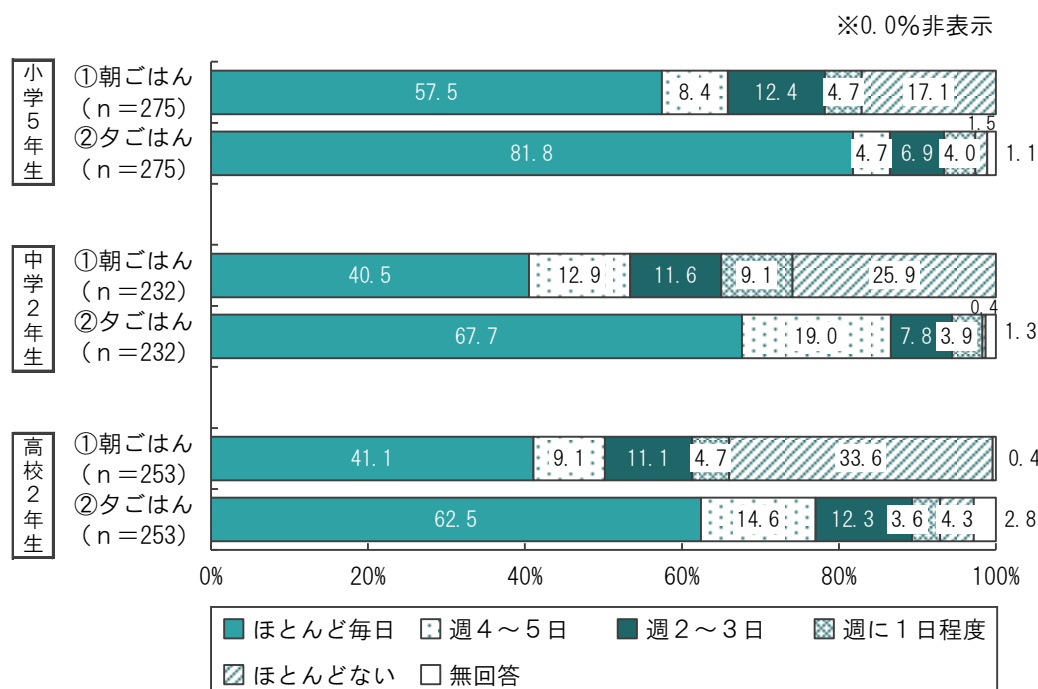
資料：2023（令和5）年度 焼津市健康・食育に関する実態調査報告書

(8) 食事を家族の誰かと一緒に食べる頻度（小・中・高校生）

小・中・高校生の食事を家族の誰かと一緒に食べる頻度について、朝ごはんにおいて「ほとんどない」が小学5年生は17.1%（前回2016（平成28）年度調査比+2.2ポイント）、中学2年生は25.9%（同-3.6ポイント）、高校2年生は33.6%（同+2.0ポイント）となっており、学年が上がるにつれ多くなっています。

夕ごはんにおいては「ほとんどない」が小学5年生は1.5%（同+0.4ポイント）、中学2年生は0.4%（同-1.2ポイント）、高校2年生は4.3%（同-1.7ポイント）となっています。

【食事を家族の誰かと一緒に食べる頻度（小・中・高校生）】

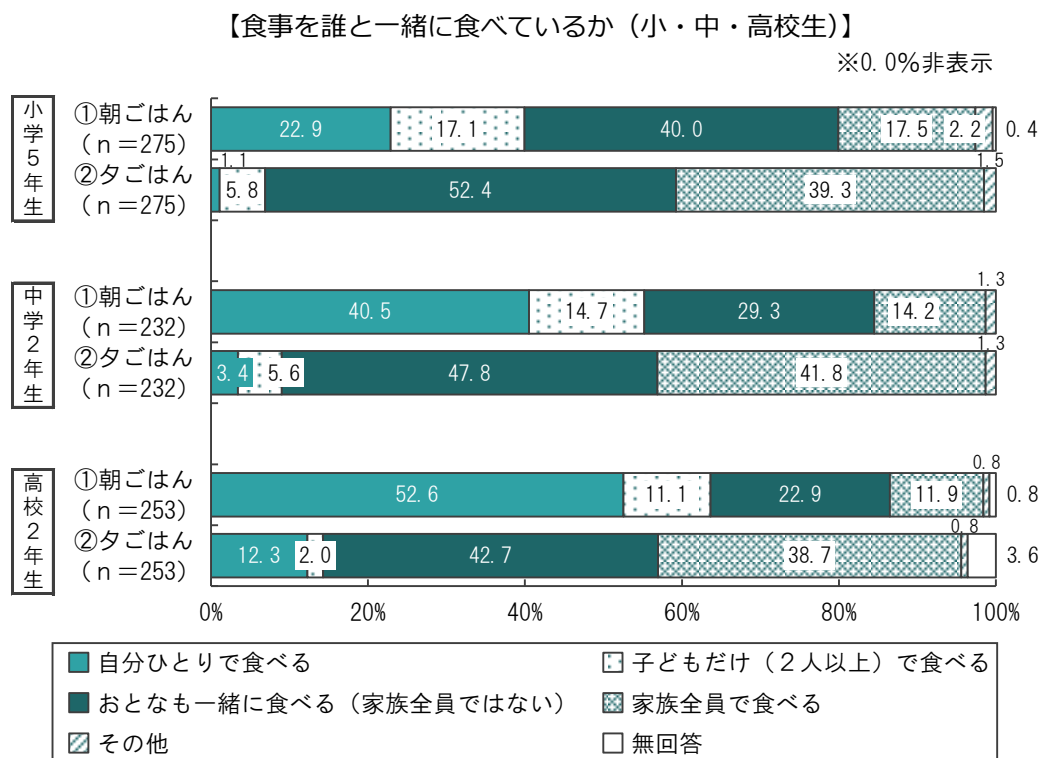


資料：2023（令和5）年度 焼津市健康・食育に関する実態調査報告書

(9) 食事を誰と一緒に食べているか(小・中・高校生)

小・中・高校生の食事を誰と一緒に食べているかについて、朝ごはんにおいて「自分ひとりで食べる」が小学5年生は22.9%(前回2016(平成28)年度調査比+8.3ポイント)、中学2年生は40.5%(同+2.9ポイント)、高校2年生は52.6%(同-1.7ポイント)となっており、学年が上がるにつれ多くなっています。

夕ごはんにおいては「自分ひとりで食べる」が小学5年生は1.1%(同+0.7ポイント)、中学2年生は3.4%(同-3.2ポイント)、高校2年生は12.3%(同-9.5ポイント)となっています。



資料：2023(令和5)年度 焼津市健康・食育に関する実態調査報告書

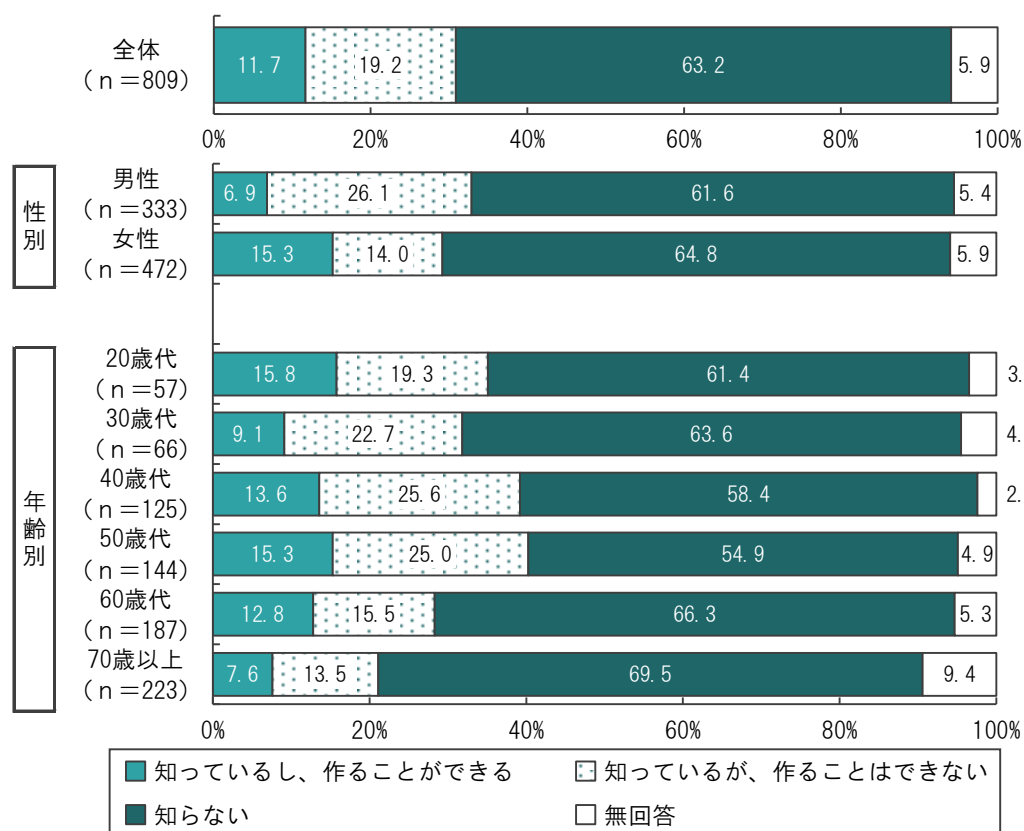
(10) 居住地域で昔から作られてきた料理や地域の特産物を使った料理の認知度

一般市民（20歳以上）の居住地域で昔から作られてきた料理や地域の特産物を使った料理の認知度について、「知らない」が63.2%（前回2016（平成28）年度調査比－6.0ポイント）と最も多く、次いで「知っているが、作ることはできない」が19.2%（同＋6.8ポイント）、「知っているし、作ることができる」が11.7%（同－0.6ポイント）となっています。また、『知っている』（「知っているし、作ることができる」＋「知っているが、作ることはできない」）は30.9%（同＋6.2ポイント）と約3割を占めています。

性別でみると、女性において「知っているし、作ることができる」が15.3%と男性の6.9%より多くなっています。

年齢別でみると、『知っている』は50歳代（40.3%）、40歳代（39.2%）の順に多くなっています。

【居住地域で昔から作られてきた料理や地域の特産物を使った料理の認知度（一般市民）】



資料：2023（令和5）年度 焼津市健康・食育に関する実態調査報告書

◆知っている、または作ることができる郷土料理や地域の特産物を使った料理（一般市民）◆

知っている、または作ることができる郷土料理や地域の特産物を使った料理は、魚を使ったものが多くなっています。料理の食材では「カツオ」を使用したものが最も多く、次いで「サクラエビ」「サバ」を使用したものなどが多く挙げられています。

加工品では「黒はんぺん」が多く挙げられています。また、「おでん」も多くなっています。

料理名	件数	料理名	件数
カツオ		サバ	
カツオ	2	サバ	2
たたき	14	塩焼き	2
カツオめし	13	煮付け	2
へそ煮	7	味噌煮	2
カツオ節	6	〆サバ	1
へそフライ	5	サバ子の煮付け	1
刺身	4	味噌汁	1
カツオのへそ	2	焼きサバ	1
なまり節サラダ	2	マグロ	
角煮	2	角煮	3
塩辛	2	佃煮	3
カツオ節を使った料理	2	刺身	2
へそ味噌煮	2	漬け丼	1
あら煮	1	マグロ丼	1
かつーじゃ	1	アジ	
なめろう	1	アジ	1
漬け丼	1	たたき	2
へそソテー	1	塩焼き	1
お茶漬	1	なめろう	1
カツオ料理	1	シラス	
なまり節ごはん	1	シラス	2
なまり節料理	1	シラス丼	2
なまり節入りキュウリの酢の物	1	シラス釜揚げ	1
へその醤油漬焼き	1	チャーハン	1
佃煮	1	味噌和え	1
サクラエビ			
サクラエビ	2		
かき揚げ	8		
天ぷら	4		
アヒージョ	1		
フライ	1		
お好み焼き	1		

料理名	件数	料理名	件数
その他の魚料理		その他の料理	
黒はんぺん	43	おでん	48
黒はんぺん・はんぺんのフライ	42	佃煮	6
なまり節	12	おひら	2
刺身	8	金山寺味噌	2
ガワ	3	里芋の煮付け	2
なめろう	3	とろろ料理	2
イワシのつみれ汁	2	味噌汁	2
かまぼこ	2	インゲン豆の煮物	1
塩辛	2	栄養きんぴら	1
魚料理	2	大井川のしょうがを使った炊き込み	1
なると	2	おから	1
アジゴなどのヘギ またはそれをつかった料理	1	角煮	1
イカ	1	カップリーニ	1
イシモチ料理	1	切り干し大根	1
イワシ	1	こんにやく	1
エノハ	1	さくら飯	1
コハダ	1	しぐれ煮	1
ジンダ	1	ジャガイモ料理	1
タチ	1	次郎柿を使った白あえ	1
タチウオの塩焼き	1	生姜の佃煮	1
はらもの塩焼き	1	雑煮	1
魚	1	筍のあらめ煮	1
魚を使った料理	1	たたき	1
魚のあら煮	1	ツナ缶を使ったサラダ	1
魚の煮物	1	トウガンのあんかけ	1
魚を出汁に入れたトウガン汁	1	トマト	1
黒はんぺんの煮物	1	鍋料理	1
はんぺん料理	1	奈良漬け	1
煮魚	1	煮込み	1
田作り	1	煮豆	1
練り製品	1	ネギぬた	1
練り物の煮物	1	ひじきの煮物	1
		干し芋	1
		干しがき	1
		味噌煮	1
		野菜油炒め	1
		和田井	1

資料：2023（令和5）年度 焼津市健康・食育に関する実態調査報告書

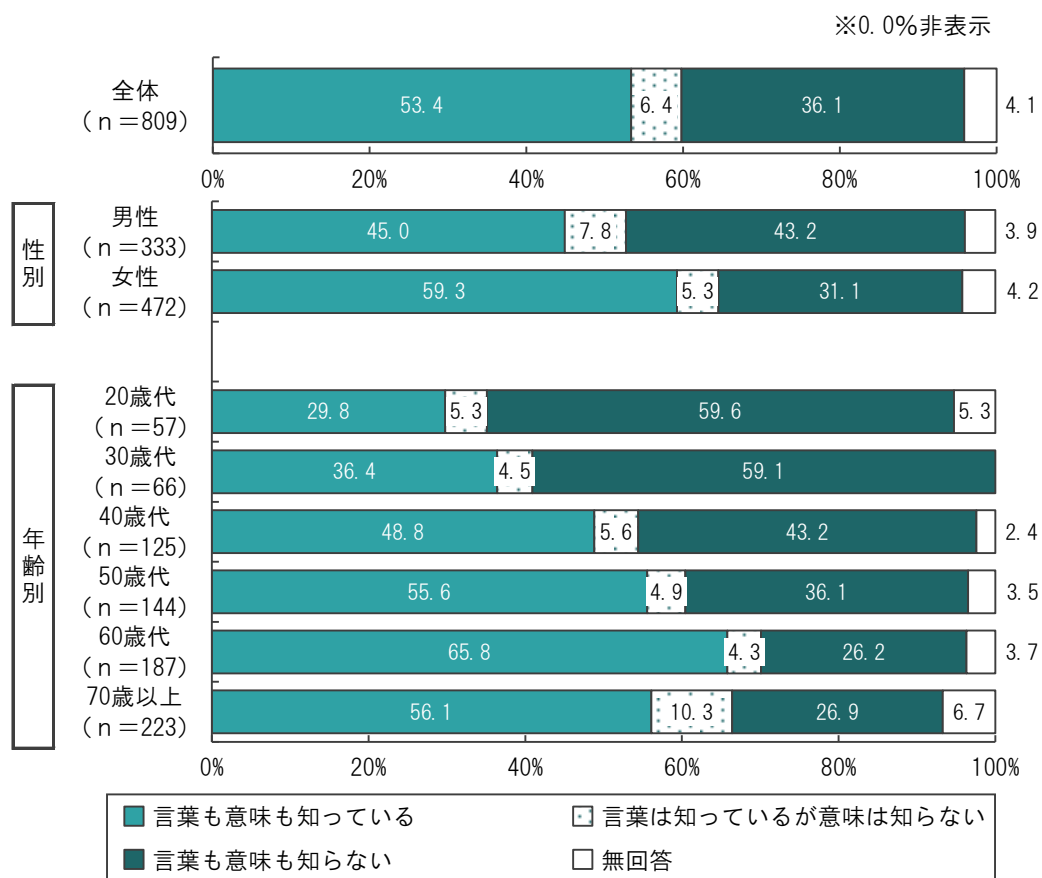
(11)「8020運動」の認知度

一般市民(20歳以上)の「8020運動」の認知度について、「言葉も意味も知っている」が53.4%(前回2016(平成28)年度調査比-1.9ポイント)、「言葉も意味も知らない」が36.1%(同+1.5ポイント)となっており、「8020運動」の浸透はあまり進んでいないといえます。

性別でみると、女性において「言葉も意味も知っている」が59.3%と男性の45.0%より多くなっています。

年齢別でみると、「言葉も意味も知っている」は年齢が高くなるにつれ多くなり、60歳代では65.8%となっています。

【「8020運動」の認知度(一般市民)】



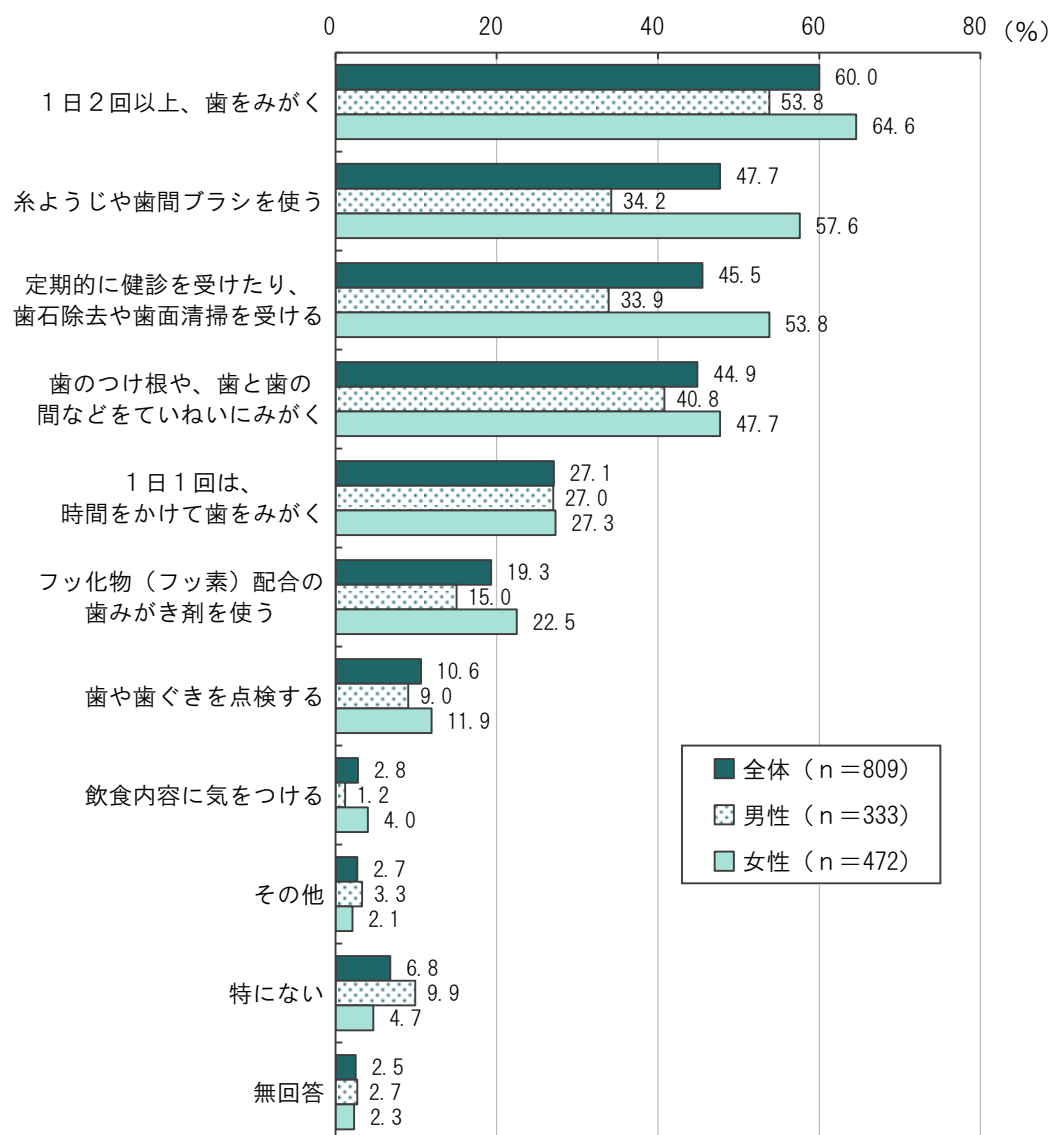
資料：2023(令和5)年度 焼津市健康・食育に関する実態調査報告書

(12) 歯の健康維持のために心がけていること

一般市民（20 歳以上）の歯の健康維持のために心がけていることについて、「1 日 2 回以上、歯をみがく」が 60.0%（前回 2016（平成 28）年度調査比+2.1 ポイント）と最も多く、次いで「糸ようじや歯間ブラシを使う」が 47.7%（同+9.8 ポイント）、「定期的に健診を受けたり、歯石除去や歯面清掃を受ける」が 45.5%（同+11.0 ポイント）などとなっています。

性別でみると、いずれの項目も女性が男性より多くなっています。

【歯の健康維持のために心がけていること（一般市民）】



資料：2023（令和 5）年度 焼津市健康・食育に関する実態調査報告書

第3節 前計画の評価

2018（平成30）年度から2024（令和6）年度までを計画期間とした「やいづ健康いきいきプラン（第3次焼津市健康増進計画・第3次焼津市食育推進計画・第1次焼津市歯科口腔保健計画）」に掲載した各分野の目標値52項目について実績値を確認し、達成状況を評価したところ、以下の結果となりました。

評価区分		評価基準						
◎（達成）		直近値が目標値を達成						
○（改善傾向）		直近値が基準値より改善						
△（横ばい、悪化）		直近値が基準値に比べ横ばい、または悪化						

計画課題	項目数	◎		○		△		全体 達成状況 (◎+○)
		項目	割合	項目	割合	項目	割合	
【健康増進計画】	26	5	19.2%	7	26.9%	14	53.8%	46.2%
重点目標	5	2	40.0%	1	20.0%	2	40.0%	60.0%
(1)生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底	2	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	100.0%
(2)社会生活を営むために必要な心身機能の維持向上	2	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	50.0%
(3)健康を支え、守るための社会環境の整備	1	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0.0%
分野別	21	3	14.3%	6	28.6%	12	57.1%	42.9%
1.健康管理	13	2	15.4%	2	15.4%	9	69.2%	30.8%
2.運動・身体活動	2	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	100.0%
3.喫煙・飲酒	4	0	0.0%	2	50.0%	2	50.0%	50.0%
4.こころの健康	2	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%	50.0%
【食育推進計画】	16	2	12.5%	3	18.8%	11	68.8%	31.3%
重点目標	2	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%	50.0%
(1)(2)	2	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%	50.0%
分野別	14	2	14.3%	2	14.3%	10	71.4%	28.6%
1.食で体をはぐくむ	8	1	12.5%	2	25.0%	5	62.5%	37.5%
2.食で心をはぐくむ	6	1	16.7%	0	0.0%	5	83.3%	16.7%
【歯科口腔保健計画】	10	3	30.0%	3	30.0%	4	40.0%	60.0%
重点目標	2	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%	50.0%
(1)(2)	2	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%	50.0%
分野別	8	3	37.5%	2	25.0%	3	37.5%	62.5%
1.歯と口の健康管理	8	3	37.5%	2	25.0%	3	37.5%	62.5%
合 計	52	10	19.2%	13	25.0%	29	55.8%	44.2%

目標値の達成状況について、52項目中、「◎（達成）」と「○（改善傾向）」を合わせた改善割合は、44.2%となっています。

健康増進計画の重点目標「（3）健康を支え、守るための社会環境の整備」、分野別「1.健康管理」、食育推進計画の分野別「1.食で体をはぐくむ」「2.食で心をはぐくむ」において、改善割合が40%未満と低くなっています。いずれも市民一人ひとりが主体的に取り組むことが重要な成果目標となるため、さらなる啓発が課題となっています。